

International Safe School



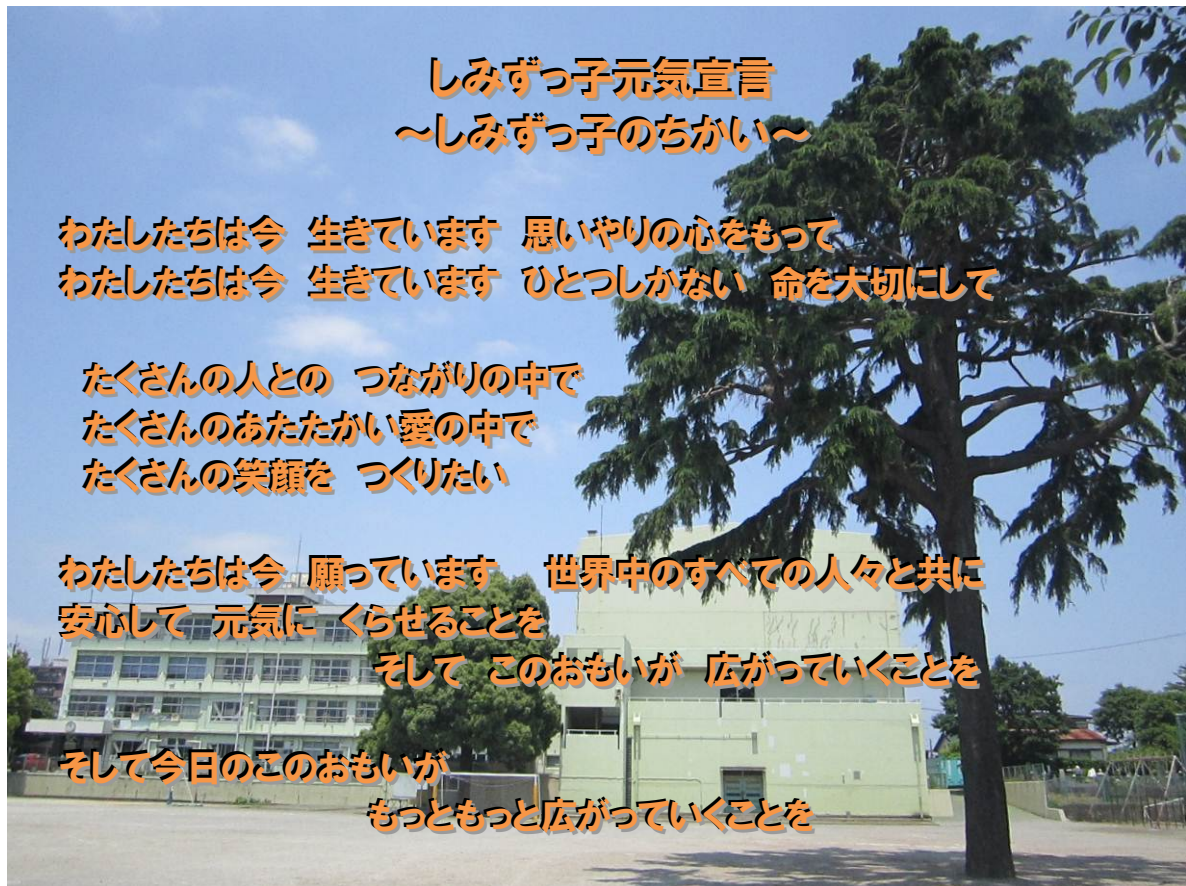
厚木市立清水小学校

November 2013

WHO Collaborating Centre on Community Safety Promotion
International Safe School Designation Application

ISSは

清水小学校の“学校文化”となりました



表紙について

I S S (インターナショナルセーフスクール) のロゴマークを校舎壁面に設置 (2013. 3. 3)。
子どもたちは、国際認証校という誇りと自覚をもって積極的に学校生活を送っています。

清水小学校 I S S シンボルマーク



運営委員会が児童からシンボルマークを募集し、制定しました。
みんなが安全になり笑えるようにと、校舎がヘルメットをかぶって、ニコニコしています。

また、I S S の3文字は、信号の3色になっています。花の絵は、スクールフラワーである、ひまわりを表しています。



I S S の取組は

発展と持続可能性へ

厚木市立清水小学校は、2010年11月に日本国内で2番目、市町村立小学校では初めてのI S S 認証を取得しました。

あれから3年が経ち、今、再認証に向けてさらなる活動に挑戦しております。子どもたちは、国際認証を取得したことを誇りに思い、I S S をより広げ、さらに持続するための努力をしています。I S S 活動をより発展させるために学校は今、認証時に子どもたちの手によって創られた「しみずっ子元気宣言」にメロディーを付け、行事等で歌い継がれています。さらには、小学校を卒業した子どもたちがI S S 活動に引き続き関わるようになっていきます。その1つに学区の小学校と中学校の5校による地震を想定した児童生徒の引き渡し訓練を行いました。I S S 活動が子どもたちや保護者、地域によって広がり、確実に発展していることを確信しています。

また、より安全な教育環境づくりを目指すI S S への取組は、心の育ちにも大きく影響を与えています。けが減らしやヘルメット着用、交通事故減少等は、確実に数値としての成果をあげていますが、同時に教育環境が整うことで安心して学習できることや安全の中で楽しく過ごせる学校づくりにより、不登校児童の減少や数値として表せない子どもたち一人一人の心の育ちに大きな期待が高まります。

さらに、I S S が厚木市のセーフコミュニティのモデル地区の指定を受けている地域や保護者・学校で組織された「しみずっ子すこやかネットワーク会議」は、子どもたちのために学校・保護者・地域が連携し、取り組んでいることを評価され、文部科学大臣賞を受賞することができました。

今後も“子どもたちのために”学校・保護者・地域が一丸となって取組み、未来を担う子どもたちが安心・安全な学校で成長できるよう、努めてまいります。

2013年11月

清水小学校長 蓋原万里子



今、求められる「学校の安心・安全」

2010年11月、清水小学校は市町村立学校において全国初となる「インターナショナルセーフスクール（ＩＳＳ）」の国際認証を取得しました。

そして、そのわずか4ヶ月後、私たちにとって決して忘れることのできない東日本大震災が発生しました。まさに、清水小学校がＩＳＳの国際認証取得を大きな節目として、安心・安全な学校づくりのさらなる充実に取り組んでいるときでした。

東日本大震災では、地震や津波により多くの尊い生命が失われるとともに、東北地方の人々の生活や産業に甚大な被害がもたらされ、今なお多くの人々の心に深い傷跡を残しています。さらに、私たち教育関係者に対しては、「今後、目指すべき『学校の安心・安全』とはいかにあるべきか」という大きな課題が投げかけられました。

そして、私たちは、この震災を通して、これまで「命を守られてきた子どもたち」を「自分自身で命を守ることができる子どもたち」へと成長させることが必要であるという教訓を得ました。

清水小学校は、国際認証取得後も、安心・安全な学校づくりの先進校として意欲的な取組を継続するとともに、震災後は、その教訓をいち早く目指すべき視点に取り入れ、いま求められる防災安全教育への見直しを行ってまいりました。「命を大切にし、自ら考えて行動ができる児童をめざして」という研究テーマを掲げ、学校全体で組織的な研究実践に取り組みました。さらに、近隣の小・中学校4校と連携して保護者への引き渡し訓練を広域的に実施するなど、実効性のある防災安全教育の普及・発展に力を注いでまいりました。

今後も、清水小学校が、市内の小・中学校のモデル校として、機能的なネットワークを広げていく中心的な役割を担い、その取組が安心・安全な学校づくりのさらなる発展の礎となって、「確かな行動で、自らの命を守ることができる子どもたち」の育成に大きな力を発揮してくれることを確信しています。

最後になりましたが、清水小学校の取組に対してお力添えをいただいている関係者の皆様方に心から感謝申し上げます。

2013年11月

教育長 平井 広



「安心・安全で元気なまち あつぎ」の 実現を目指して

清水小学校のインターナショナルセーフスクール再認証取得に向けた取組が、この度、申請書という形に成就いたしましたことを心よりお喜び申し上げます。

時が経つのは早いもので、2010年に清水小学校が認証を取得してから3年が過ぎました。この間、児童の皆さん、学校の先生方、保護者の皆さん、そして学校を支える地域の皆さんには、安全な教育環境づくりに向けて、連携・協働により継続的な取組を行っていただいております。この不断の取組を積み重ねていくことは、安心・安全な学校づくりには欠かせないものであり、難しい面でもあると思います。様々なご苦労や課題を乗り越えて、取組を継続的に推進することができたのは、大人たちの児童を見守る思い、そして児童の皆さん自身の高い意識があったがゆえのものと考えております。あらためて関係者の皆さんのご尽力に敬意を表するとともに、子どもたちの安全を願う者の一人として感謝を申し上げます。

現在、厚木市におきましては、平成27年のセーフコミュニティ再認証に向けた取組を進めております。セーフコミュニティの再認証は5年ごと、インターナショナルセーフスクールの再認証は3年ごとですので、厚木市より一足先に清水小学校が再認証を迎えることとなります。厚木市も清水小学校と同様に、様々な関係者が連携・協働して、継続的に取組を推進していかなければなりません。清水小学校の再認証取得を励みに、また清水小学校関係者の皆さんの熱意に負けない意気込みを持って、厚木市もセーフコミュニティ再認証を目指してまいります。今後も「インターナショナルセーフスクール認証校」、そして「セーフコミュニティ認証都市」であることを誇りに、「安心・安全で元気なまち あつぎ」の実現に向けて、皆さまのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

2013年11月

厚木市長 小林 常良

目 次

I	清水小学校の概要.....	1
1	校章.....	1
2	児童数.....	1
3	地理的な特徴.....	2
II	インターナショナルセーフスクールの取組経緯.....	3
1	背景.....	3
2	取組のイメージ.....	4
3	進行状況.....	5
III	8つの指標に基づいた取組.....	9
指標－1	協働を基盤に、安全向上に取り組む運営基盤の整備.....	9
指標－2	セーフスクール推進組織と「セーフコミュニティ」に基づいた 地域の推進協議会によって決定されたセーフスクールの政策.....	14
指標－3	両性、全年齢、環境、状況をカバーする長期的かつ継続的なプ ログラム.....	17
指標－4	ハイリスクのグループや環境を対象としたプログラム.....	29
指標－5	入手可能な根拠に基づくプログラム.....	32
指標－6	外傷の発生頻度や原因などを記録するプログラム.....	43
指標－7	学校政策、プログラム及びそのプロセスが変化したことによる 効果の評価.....	45
指標－8	国内・国際的なネットワークへの継続的な参加.....	64
V	今後の課題及び目標.....	66
	優先課題・目標.....	66
VI	長期展望.....	68
1	長期目標.....	68
2	今後の展開.....	68

I 清水小学校の概要

厚木市のほぼ中央に位置する清水小学校は、先人のたゆまざる努力によって創られた140年余の長い歴史とよき伝統を大切に、地域と家庭との信頼と尊敬で結ばれる学校づくりに努力している。

校庭にそびえる一本のヒマラヤスギの大樹は、本校のシンボルとして市民から親しまれており、また、小学校に隣接する妻田薬師（遍照院）には県指定天然記念物である樹齢約500年のクスノキや市指定有形文化財の薬師堂がある。



清水小のシンボル「ヒマラヤスギ」

1 校章



1915年、それまで妻田薬師境内にあった校舎が現在地に新築完成したことを記念して制定したものである。当時の教員がデザインしたもので、薬師境内にある大楠と湧出する清水にちなんで、清水の流れと菊水を表している。菊水とは、紋所の一つで、楠氏の家紋として名高いと言われている。

2 児童数

全校児童数 930人（2013年5月1日現在）

表－1

単位：人

	クラス数	1組	2組	3組	4組	5組	合計
1年生	5	34	33	33	34	35	169
2年生	5	30	31	30	30	31	152
3年生	4	32	32	32	31		127
4年生	5	33	33	32	32	31	161
5年生	5	33	34	33	33	33	166
6年生	4	33	34	34	34		135
学習室	5	20					20
合計	33						930

3 地理的な特徴

清水小学校は、本厚木駅から北へ約3 km、神奈川県厚木市のほぼ中央に位置している。東に中津川、西に荻野川と2つの河川に挟まれた田園風景と住宅地、さらには商業地が複雑に密接すると共に、国道412号線、246号線が区域を通っており、交通量も多い地域である。



Ⅱ インターナショナルセーフスクールの取組経緯

1 背景

清水小学校では、児童の安全向上のため、しみずっ子すこやかネットワーク会議の設立をはじめ、各種安全対策に取り組んできたが、2008年には、児童の交通事故が7件発生し、そのうち6件は自転車乗車時の事故であった。そこで、従来の安全対策に加え、自転車交通安全対策にも力を入れるようになった。

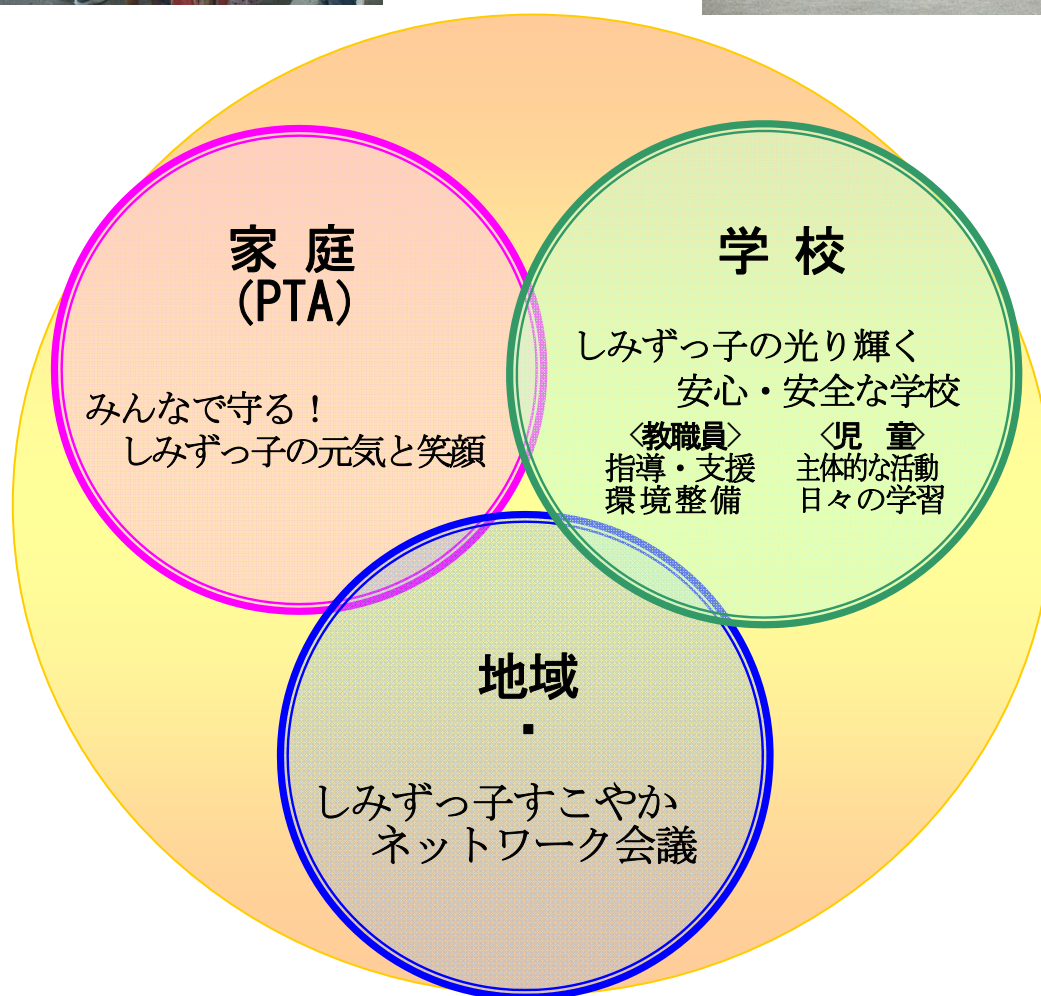
また、同年、道路交通法の改正があり、児童、幼児の自転車乗車時のヘルメット着用の努力義務規定を受け、児童の自転車乗車時のヘルメット着用運動へと対策は発展してきた。

2009年には、折しも厚木市がセーフコミュニティ認証取得を目指していたこともあり、また、かねてから清水小学校が実践してきた安全に対する取組がセーフコミュニティの理念、手法と合致する点が多かったことから、市からセーフコミュニティモデル地区の指定を受け、地域の実情に応じたセーフコミュニティ活動を展開してきた。

その後、セーフコミュニティ活動に携わる機会が増したことにより、インターナショナルセーフスクールの認証制度を知ることとなった。そして、学校における安全の向上を目指す本認証の取得を目指すことにより、一層安全に対する意識が高まるとともに、取組を体系的かつ効果的に推進することができると判断したものである。また、これにより、市のセーフコミュニティの取組との協調体制も確固たるものとなった。



2 取組のイメージ



子どもが安心できる場所こそがセーフコミュニティ



3 進行状況

年・月	校 内	市 内	県 内	国 内	国 外	取 組
2006. 7	●					しみずっ子すこやかネットワーク会議設立
2008. 11	●					自転車用ヘルメットに関するアンケート調査開始
2008. 11		●				「セーフコミュニティ推進に向けての市民総決起大会」（厚木市）で取組を発表
2009. 2					●	アジア地域WHOセーフコミュニティ認証センター指導者が清水小学校を視察
2009. 3					●	台湾国内のインターナショナルセーフスクールを視察
2009. 4		●				厚木市が「しみずっ子すこやかネットワーク会議」をセーフコミュニティモデル地区に指定
2009. 8	●					第1回ワークショップ開催
2009. 9	●					第2回ワークショップ開催
2009. 9		●				「第13回融合フォーラム2009 in 神奈川」（厚木市）で取組を発表
2009. 10	●					第3回ワークショップ開催
2009. 11		●				「セーフコミュニティ認証取得に向けての総決起大会」（厚木市）で取組を発表
2009. 11					●	韓国国内のインターナショナルセーフスクールを視察
2010. 1	●					インターナショナルセーフスクール認証取得を目指すことを決定
2010. 2	●					インターナショナルセーフスクール認証取得を目指す意思を正式に表明
2010. 2		●				「第31回厚木市立小・中学校PTA活動研究大会」（厚木市）で取組を発表
2010. 3				●		大阪教育大学附属池田小学校のインターナショナルセーフスクール認証式に参加
2010. 3				●		「アジア・太平洋学校安全推進フォーラム」（大阪府池田市）に参加

年・月	校 内	市 内	県 内	国 内	国 外	取 組
2010. 3					●	「第 19 回セーフコミュニティ国際会議」(韓国スウォン市) で ポスター発表
2010. 6					●	アジア地域WHOセーフコミュニティ認証センター指導者が清 水小学校を視察
2010. 8	●					インターナショナルセーフスクール認証校である大阪教育大学 附属池田小学校から講師を招いて校内研究会を実施
2010. 9		●				日本市民安全学会「市民オープンカレッジ」(厚木市) で取組を 発表
2010. 10				●		「第 14 回融合フォーラム in 富士山のまち富士宮」(富士宮市) で取組を発表
2010. 10		●				「平成 22 年度PTA会長と教育関係者との研究会」(厚木市) で取組を発表
2010. 11		●				「市民安心・安全フェスタ 2010 in あつぎ」(厚木市) にて取組 を発表
2010. 11	●					日本で 2 番目、市町村立学校としては初の「インターナシヨ ナルセーフスクール」の認証を取得し、認証式を開催
2011. 3				●		全国学校安全教育研究大会・東京都学校安全教育研究大会にて 取組を発表
2011. 6				●		「としま安全安心フェスタ」(東京都豊島区) で取組を発表
2011. 7				●		埼玉県学校安全指導者研究会にて取組を発表
2011. 7		●				厚木市が「しみずっ子すこやかネットワーク会議」を安心・安 全セーフコミュニティ推進地区に指定
2011. 8		●				「清水小学校校内研究会・厚木市外傷サーベイランス委員会研 修会」(清水小) で取組を発表
2011. 8			●			神奈川県大和市安全部研究会にて取組を発表
2011. 9					●	「第 20 回セーフコミュニティ国際会議」(スウェーデンファー ルン) でポスター発表
2011. 11			●			「第 53 回神奈川県PTA大会」(厚木市) で取組を発表
2011. 11		●				「セーフコミュニティ・インターナショナルセーフスクール認 証 1 周年記念大会」(厚木市) で取組を発表

年・月	校 内	市 内	県 内	国 内	国 外	取 組
2011. 11				●		「日本セーフティプロモーション学会第5回学術大会」(大阪府池田市) で取組を発表
2011. 12				●		「日本セーフコミュニティ推進機構 (JISC) 国際シンポジウム」(大阪府大阪市) で取組を発表
2012. 1				●		文部科学省中央教育審議会取組を発表
2012. 4				●		大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター「日本インターナショナルセーフスクール認証センター設立記念祝賀会」及び「第2回アジア・太平洋学校安全推進フォーラム」(大阪府池田市) に参加
2012. 6		●				厚木市が「しみずっ子すこやかネットワーク会議」を安心・安全セーフコミュニティ推進地区に指定
2012. 6			●			神奈川県教育委員に取組を発表
2012. 10				●		京都府議会視察団に取組を発表
2012. 10				●		東京都豊島区立朋有小学校のインターナショナルセーフスクール現地審査に参加
2012. 11				●		東北大学・山形大学の視察団に取組を発表
2012. 11		●				厚木市立小・中学校校長会で取組を紹介
2012. 11				●		清水小PTAが文部科学大臣表彰並びに全国PTA会長表彰を受賞
2012. 11				●	●	東京都豊島区立朋有小学校のインターナショナルセーフスクール認証式に参加
2012. 11				●		第6回アジア地域セーフコミュニティ国際会議 in 豊島で取組を発表
2012. 11				●		日本教育新聞社に取組を発表
2012. 12				●		「日本セーフコミュニティ推進機構 (JISC) 国際シンポジウム」(大阪府大阪市) で取組を発表
2012. 12		●				厚木市妻田保育園職員研修会で取組を発表
2012. 12				●		高知県旭小学校の視察団に取組を発表
2013. 1				●		平成24年度かながわ学力向上シンポジウムで取組を発表

年・月	校 内	市 内	県 内	国 内	国 外	取 組
2013. 1					●	韓国視察団に取組を発表
2013. 2				●		「総合教育技術」に取組を発表
2013. 6		●				厚木市が「しみずっ子すこやかネットワーク会議」を安心・安全セーフコミュニティ推進地区に指定
2013. 7				●		「教育経営方略」に取組を発表

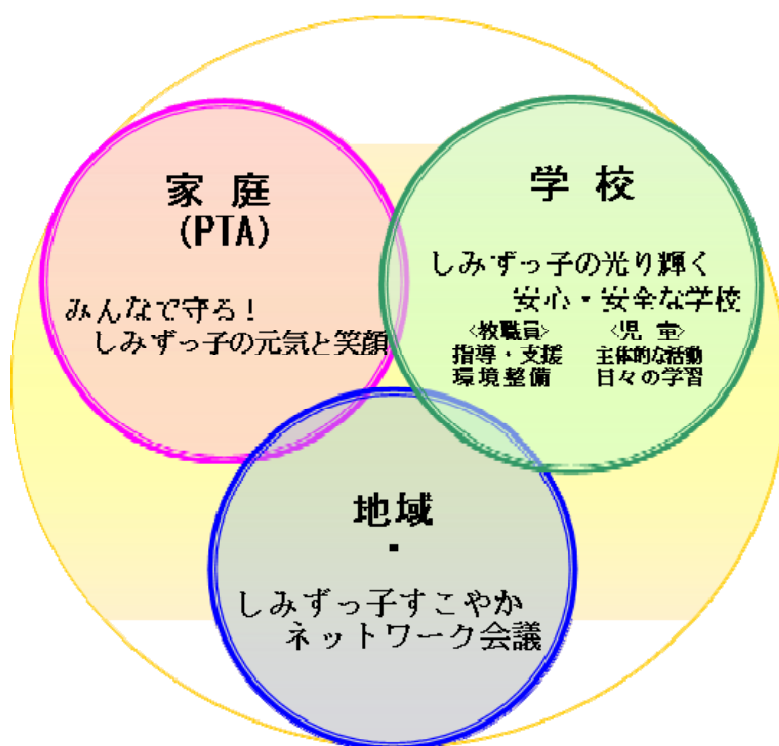
Ⅲ 8つの指標に基づいた取組

認証時から、4つの課題に対し目標を掲げ、様々な取組を展開している。

取組を進めていく中で、継続して行うプログラム、拡充が必要なプログラム、新たに始める必要のあるプログラムがわかり、安全の向上のため学校・保護者・しみずっ子すこやかネットワーク会議・地域が相互に連携し各プログラムを推進している。

指標－1 協働を基盤に、安全向上に取り組む運営基盤の整備

【運営基盤のイメージ図】



分野横断的安全推進組織

(1) しみずっ子すこやかネットワーク会議

清水小学校に在籍するすべての子どもたち、そして地域の青少年の健全育成のため、保護者を始めPTA、学校、青少年関係団体等が連携を密にしながら、ネットワーク化を図っている。

地域の子どもの生活安全、交通安全、生活指導等を地域ぐるみの活動に広め子どもも地域の皆さんも安心して暮らせる街づくりに取り組んでいる。

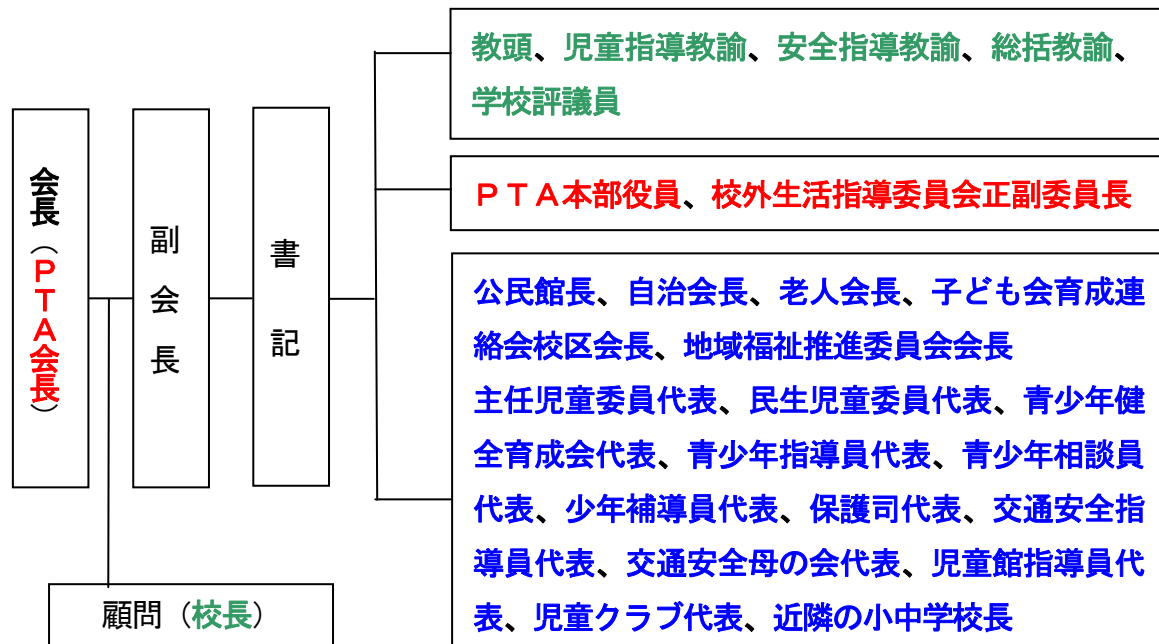
また、清水小学校の児童で組織する児童会や各委員会、教職員で組織する校内研究会と連携し、協議内容等の情報を相互に共有、効果的な対策を協力して展開

している。

なお、2009年4月からは、厚木市が指定する「セーフコミュニティモデル地区」として、市のセーフコミュニティ活動と連携し、学校や子どもを基軸とした取組の中心的役割を果たしてきた。



○しみずっ子すこやかネットワーク会議組織図



※運営基盤のイメージ図のカラーを用い、組織図を色分

【 赤 － PTA 緑 － 学校 青 － 地域 】

（2）しみずっ子すこやかネットワーク会議と連携する校内組織

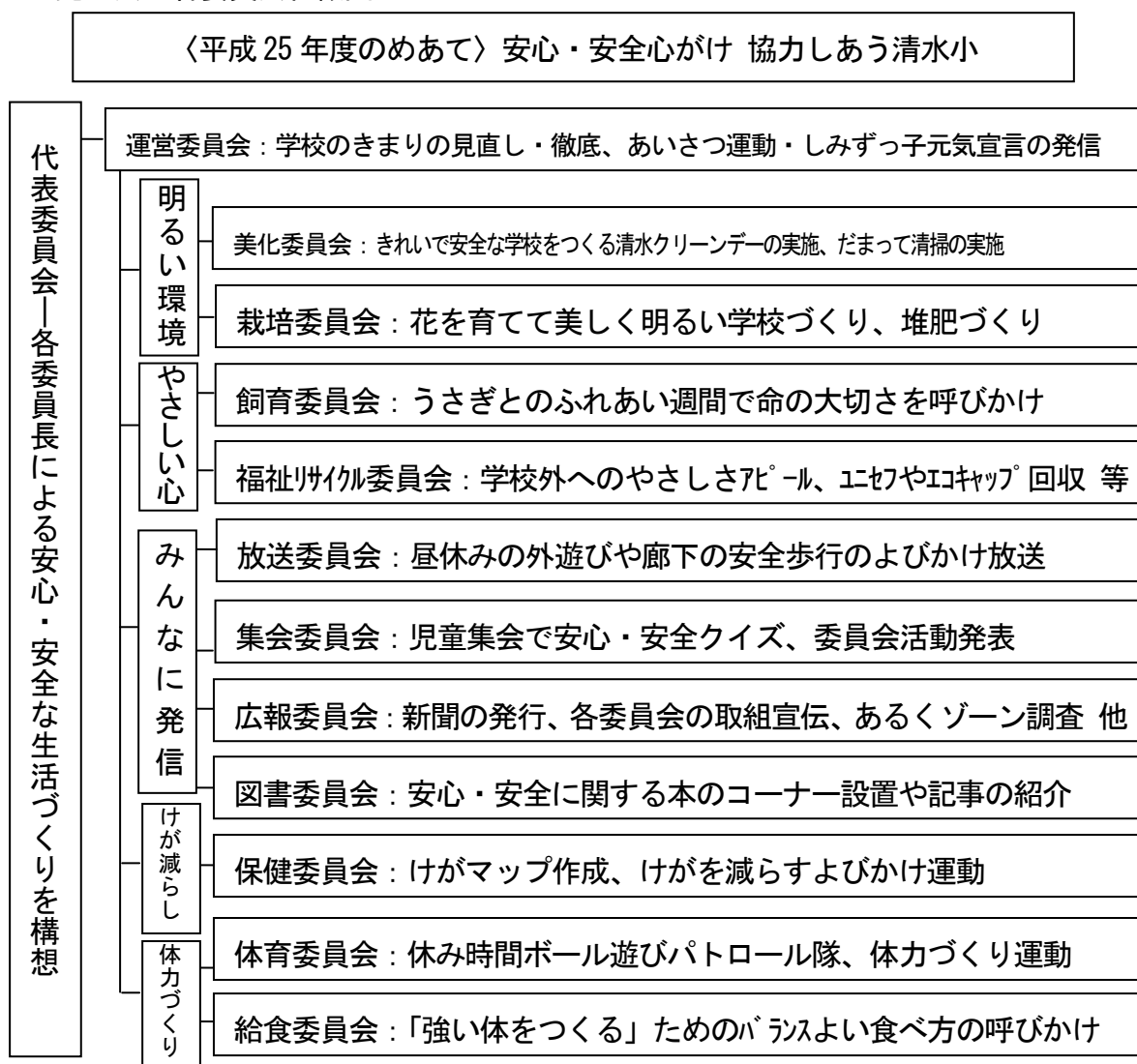
ア 児童会・各委員会

児童会を中心に、5、6年生で構成された保健委員会をはじめとする各委員会が、校内の安全に関する事項について対策を立て活動している。

なお、しみずっ子すこやかネットワーク会議とは、安心・安全な登下校の在り方をはじめとする地域での生活について情報を交換するなどの連携を図っている。それぞれの立場から、安心に対する取組を展開しています。



○ 児童会・各委員会組織図



イ 校内研究会

全教職員で構成された自主的研究組織であり、教育の今日的課題について、本校児童の実態に基づく授業実践など通じて解決を図るために活動している。

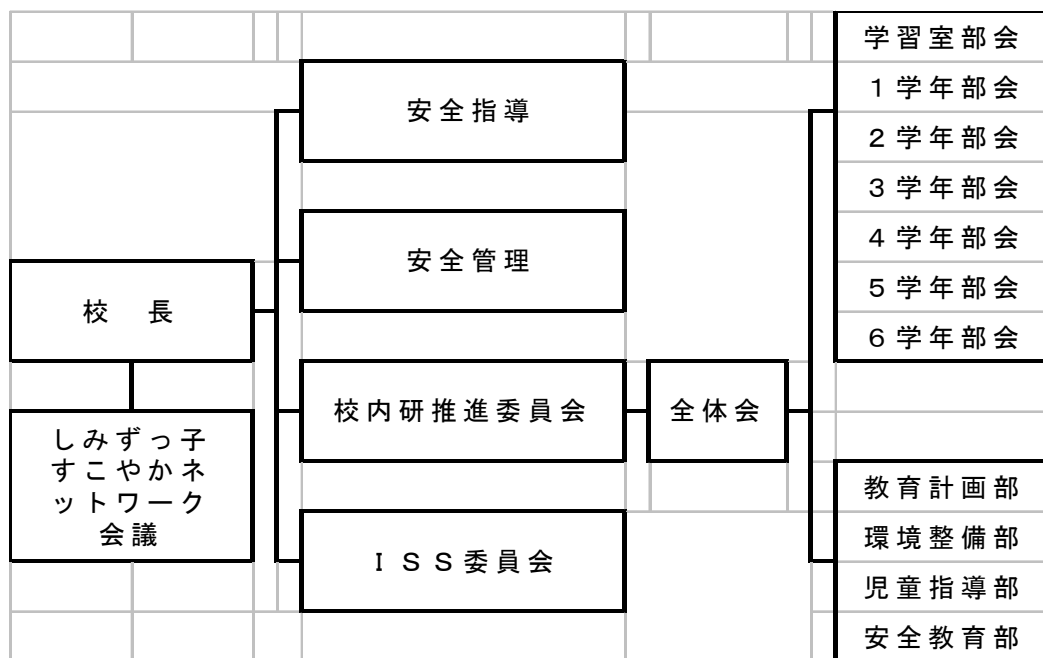
2010 年度から、「命を大切にし、自ら考えて行動ができる児童の育成をめざして」をテーマに全領域で取り組んだ。

2012 年度は、学級活動に焦点をしばって授業研究を進めた。

学級活動で、子どもたちが身近に起こった問題を解決したり、お互いに居心地のよい集団づくりをしたりすることは、まさに安心・安全の追究であり、I S S への取組の基盤となるものである。こうした活動を通して、子どもたちが安心・安全について自ら進んで考え、危険回避能力を高め行動に移す実践的な態度を育成した。

○ 校内研究会組織図

しみずっ子の光り輝く安心・安全な学校
一命を大切にし、自ら考えて行動できる児童をめざしてー



教育計画部 : 児童自らが安心・安全な生活を築くことができる力をはぐくむ授業研究
◇各教科 ◇領域（特別活動、道徳、総合的な学習の時間）

環境整備部 : 安心・安全な学校生活を送る施設整備
◇校庭、校舎内の安全環境の整備
◇防災・防犯管理 ◇安心・安全ギャラリー

児童指導部 : 児童の安心・安全に対する意識の高揚
◇児童会、各委員会の取組

安全教育部 : 安心・安全に対する実践力技能の向上
◇交通安全指導 ◇食教育 ◇防犯教室



【安心安全ギャラリー】



【あるくゾーン調査の様子】



【防災訓練の様子】

○ 研究構想図

《学校教育目標》

「豊かな心を持ち、たくましく生きる力をもって活動する子の育成」

《しみずっ子のめあて》

「かしこく」「やさしく」「まじめに」「たくましく」

《研究主題》

「しみずっ子の光り輝く安心・安全な学校」

～命を大切にし、自ら考えて行動ができる児童をめざして～

め ざ す 児 童 像

学習室	低学年	中学年	高学年
・相手のことを意識した 言葉かけができる子 ・安全に生活するための ルールを知り、それを 守ろうとする子	・みんなで仲良く活動 する子 ・身近な危険に気づき、 生活のきまりを守れ る子	・友だちと互いに助け合 える子 ・危険や事故について考 え、安全な行動がとれ る子	・人やもの、自然を大切 にし、互いに認め合え る子 ・自分やまわりの人の安 全のために、積極的に 実践ができる子

学校組織研究

教育計画部	児童自らが、安心・安全な生 活を築くことができる力をは ぐくむ教育計画の編成
環境整備部	安心・安全な学校生活を送る ための環境整備
児童指導部	児童の安心・安全に対する意 識の高揚
安全教育部	安心・安全に対する実践力・ 技能の向上

I S S 委員会

授業研究

◎安心・安全に関する思考力・判断力を
高め、適切な意思決定ができる授業研
究（学級活動に焦点をあてて）

○カリキュラムの構築

○基礎的・基本的事項の系統的理解・研修

○授業づくり

- ・児童の自発的・自治的活動
- ・自他の生命尊重や思いやり・認め合いの心
の育成
- ・自尊感情の育成
- ・危険予知・回避能力の育成
- ・思考力・判断力の向上と適切な意思決定・
行動力の育成
- ・スキル（知識・技能）
- ・地域社会の安全に貢献できる能力や態度の
育成

地域

ISS の 8 つの指標

家庭

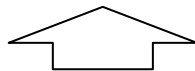
指標－２ セーフスクール推進組織と「セーフコミュニティ」に基づいた地域の推進協議会によって決定されたセーフスクールの政策

保護者、教職員及び地域住民らで組織する「しみずっ子すこやかネットワーク会議」が中心となり、地域との積極的な情報共有を図り、学校を基軸とした取組を展開してきた。

なお、「しみずっ子すこやかネットワーク会議」においては、厚木市のセーフコミュニティ活動にも積極的に参画しており、2009年に「セーフコミュニティモデル地区」の指定を受け様々なセーフコミュニティ活動を通し、厚木市のセーフコミュニティと情報共有を図っている。

(1) 清水小学校教育プラン

「しみずっ子の光り輝く安心・安全な学校」
《研究主題》



「豊かな心を持ち、たくましく生きる力をもって活動する子の育成」
《学校教育目標》

「かしこく」「やさしく」「まじめに」「たくましく」
《しみずっ子のめあて》

ア 重点「安全・安心・元気な体」

- (ア) 安全で安心して生活できる学校環境の整備・充実
- (イ) 児童の自発的・自治的活動による健康づくり
- (ウ) 交通安全指導の充実（交通事故ゼロ）
- (エ) 食教育・給食指導の推進
- (オ) 校庭施設等を活用した体力づくりの推進

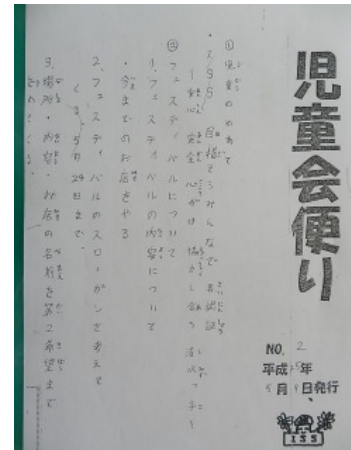


イ 具体的な取組

- (ア) 児童の安全意識を高める指導の充実
- (イ) 安全点検の工夫・充実
- (ウ) 児童会・保健・給食・体育委員会等の自発的・自治的活動によるけがの防止
- (エ) 食教育・体力づくりをとおした体力の維持・増進
- (オ) 「保健・健康だより」による啓発
- (カ) 交通安全教室の充実（安全な自転車の乗り方）
- (キ) 体育科授業の工夫・充実
- (ク) 地域安全マップの活用

(2) 児童のめあて

「I S S 目指そう みんなで 再認証
～安心・安全心がけ 協力しあう しみずっ子～」



(3) 清水小学校PTA 平成25年度事業の目的

本会は、成人教育機関として会員の資質向上、及び子どもたちがたくましく豊かな心で共に支え合い大きく成長する環境を創るため、事業を企画、実行する。併せて、清水小学校区の地域と連携し安全安心な街づくりを推進しつつ、学校の教育理念に整合した事業を行う。

この目的をより効果的に達成するために、厚木市PTA連絡協議会及び地域の関連諸団体等と適切な連携を図りながら、事業を進めることとする。

また「しみずっ子すこやかネットワーク会議」を通し、セーフコミュニティ推進地区における中核的な役割を果たすとともに、清水小学校のインターナショナルセーフスクールの活動を全面的に支援するものとする。

(4) しみずっ子すこやかネットワーク会議目的（抜粋）

「地域の子どもの生活安全・交通安全・生活指導等を地域ぐるみの活動に広める展開を進め、子どもも地域の皆さんも安心して暮らせる街づくり運動に発展させる。



指標－３ ～ ４ に関するプログラムの全体像

		対象者															
		児 童						教 員						PTA ・ 地域			
学 校	校 内	3-1	3-2	3-3	3-5	3-6	3-7	3-1	3-2	3-3	3-5	3-7	3-8	3-11	3-12		
		3-10	3-11	3-12	3-16	3-20	3-27	3-9	3-10	3-16	3-20			4-6			
		4-3	4-4	4-6				4-5	4-7								
	校 庭	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-8	4-6			
		3-10	3-14	3-16	3-20	3-26	3-27	3-9	3-10	3-16	3-20						
		4-3	4-4	4-6				4-5	4-7								
学 校 外	通 学 路	3-5	3-10	3-11	3-12	3-13	3-15	3-5	3-8	3-9	3-10	3-16	3-17	3-11	3-12	3-17	3-21
		3-16	3-17	3-18	3-19	3-20	3-21	3-18	3-20	3-21	3-22	3-23	3-24	3-23	3-24	3-25	
		3-22	3-23	3-25	3-27			3-25						4-6			
	学 区 域	4-1	4-2	4-6				4-2	4-5								
		3-5	3-10	3-11	3-12	3-13	3-15	3-5	3-8	3-9	3-10	3-16	3-17	3-11	3-12	3-17	3-21
		3-16	3-17	3-18	3-19	3-20	3-21	3-18	3-20	3-21	3-22	3-23	3-24	3-23	3-24	3-25	
		3-22	3-23	3-25	3-27			3-25						4-6			
		4-1	4-2	4-6				4-2	4-5								



指標－３ 両性、全年齢、環境、状況をカバーする長期的かつ継続的なプログラム

指標－４ ハイリスクのグループや環境を対象としたプログラム



指標－3 両性、全年齢、環境、状況をカバーする長期的かつ継続的なプログラム

1 けがの予防



1	継 続	《取組の成果は、指標7ー対策1 (P59)に記載》			
対策	校内外傷発生箇所図の掲示				
目的	危険個所の情報共有、データ収集				
概要	<p>校内に学校の平面図を掲示し、児童自らがけがをした箇所にシールを貼り付けている。危険箇所が可視化されるとともに、安全への関心を高める。</p> <p>また、改善すべき点を児童・教職員自らが発見し、具体的な対策を講じている。</p>				
実施者	児童、教職員	主な対象者	児童、教職員	環境	校内・校庭




2	継 続	《取組の成果は、指標7－対策2 (P59)に記載》			
対策	校内けが予防運動				
目的	校内外傷発生件数の減少				
概要	<p>児童会・各委員会が、校内外傷発生データをもとに、けがの多く発生した「時間帯」、「場所」、「原因」などを児童に周知し、注意を喚起している。</p> <p>年々けがの件数は、減少している。自由に遊べる「15分休み」「昼休み」が発生件数の多い時間帯になっている。全体的に落ちついて過ごせるようになってきていることから、教室でのけがの割合が減ってきている。校庭のけがの原因として多くあげられた「物にぶつかった」ことによるけが防止のため、代表委員会では、遊び方の約束の見直しや体育委員会が「パトロール隊」の見回りを強化した。また、1, 2年生の教室でのケガが多いことから、上級生が教室での過ごし方を教えに行った。全校には、机の横に荷物をかけない等の約束も決めた。</p> <p>今後、一層のルールづくりや、児童の安全意識の高揚を図る。</p>				
実施者	児童	主な対象者	児童	環境	校内・校庭






3	継 続	《取組の成果は、指標7ー対策3 (P60)に記載》			
対策	校内安全点検				
目的	校内の危険環境の改善				
概要	<p>児童自らが学校内を見回り、学校内に潜む危険環境等を点検する。「校内安全点検」により明らかになった危険環境等は、対策を検討し、環境改善を実施した。備品の角にクッションを取り付けたり、すのこをしき段差をなくしたり改善を図った。</p> <p>また、教職員は、毎月1日と15日を基準日に安全点検を実施しており、老朽化や整備不良はもとより、構造上の問題から危険な状態になっている箇所の発見に努めている。更に毎日、校庭の固定用具の点検を複数の目で安全点検を行っている。</p> <p>なお、発見できた危険箇所については、修繕や改修に向け、速やかな対応に心がけている。</p>				
実施者	児童、教職員	主な対象者	児童、教職員	環境	校内・校庭





4	継 続	《取組の成果は、指標7ー対策4 (P61)に記載》			
対策	校庭へのエントランススロープの改修及び注意喚起運動				
目的	外傷多発箇所の環境改善、注意喚起				
概要	<p>児童が校庭へと向かう際に通る下り坂で「ぶつかったり、滑ったりして転ぶ」という外傷が多く発生していたことを受け、滑り止め加工をした舗装に改修し、「あるくゾーン」と命名して、走らずに歩いて通ることをルール化した。</p> <p>そして、広報委員会では、休み時間に走り下る人数を調査し、その結果を児童朝会で発表するなどして、注意を継続的に呼びかけている。</p>				
実施者	児童、教職員、厚木市	主な対象者	児童	環境	校庭

5	継 続				
対策	命についての学習(危険回避力、危険予知力の学習)				
目的	命を大切にする心や危険回避・予知力を養う				
概要	<p>「道徳」「学級活動」の授業等において、命を大切にする心や、自ら考えて安全な行動ができる力(危険回避力、危険予知力)を養うためのカリキュラムを取り入れている。</p> <p>たとえば、3年生では、学級活動に地震や火災が発生した場合の危険に気づき、自らすばやく安全を確保するための行動について学んだ。休み時間や状況を想定し、どのようにすれば身を守ることができるか考え、行動した。学習の成果は、日常生活の中で活かされた。6年生では、「総合的な時間」に応急処置について学んだ。一人一人が救命ドリルを使い、人工心肺蘇生法を体験した。命の大切さと、自分ができることをしっかりと受け止めることができた。</p>				
実施者	教職員	主な対象者	児童	環境	全て





6	継 続				
対策	保健目標の設定				
目的	安心・安全に対する意識の向上				
概要	毎月1日、各学級において保健目標を確認し、自分の健康に関心を持たせる。また、「保健・安全クイズ」を実施し、児童が安全点検を呼びかけ、児童の安心・安全に対する意識の向上を図る。				
実施者	教職員	主な対象者	児童	環境	校内・校庭



7	継 続				
対策	窓からの転落防止金具の設置				
目的	校内の危険環境の改善				
概要	校舎の一部には、窓の外側にベランダが設置がないため、開放した窓から児童が落下する事故につながる可能性があったことから、2階以上の窓に開放を制御する金具を設置した。				
実施者	教職員	主な対象者	児童	環境	校内


8	拡 充	※実施回数を増やし、研修内容の幅を広げた。				
対策	教職員対象の研修会の実施					  
目的	教職員の危機対応能力の向上					
概要	<p>学校では、防犯カメラを設置し、外来者の受付を行うなど、常にその動向に注意を払うことで危機の未然防止に努めているが、不審者が侵入してきた場合を想定し、児童はもとより教職員自身の生命を守り、危機を回避することができる個人的な対応力と組織的なシステムの向上を目的として、定期的に防犯研修会を実施している。</p> <p>2012年の研修会では、警備会社による不審者侵入に対して、複数の教職員による声かけや、不審者との適切な位置の取り方、さらには侵入情報を学校全体で迅速に共有し、組織的に対応できるよう実習と学習を行った。また、稼業中の不審者侵入時の訓練を行うことにより、児童・教職員の行動を確認することができた。</p> <p>【研修会等の開催】</p> <ul style="list-style-type: none">・インターナショナルセーフスクールに関する勉強会 8回・安全教育に関する研修会 3回・交通安全、防犯、防災に関する研修会 6回					
実施者	教職員、外部講師	主な対象者	教職員	環境	校内・校庭	

9	新 規				
対策	学校安全計画の見直し				
目的	学校における安全方針や学校安全計画の確立				
概要	学校における安全方針や学校安全計画を毎年見直し、安全の取組による効果の推移と成果について検討する。全職員が共通理解のもと、安心・安全意識を高め取り組んでいくことを目的とする。				
実施者	教職員	主な対象者	教職員	環境	校内



10	継 続				
対策	定期的な安全指導				
目的	安心・安全に対する意識の向上				
概要	<p>ヘルメットの着用や交通ルールの遵守など、児童の安心・安全な生活づくりに向けた意識の向上を図るために、内容に応じて集会や学級において、定期的な指導を行っている。</p> <p>具体的には、毎月1日に「保健・安全クイズ」による身の回りの安全点検。毎月5日には防犯ブザー所持状態の調査、15日には交通ルールの理解を促進させる問いかけ、さらに月末及び休日前には休日の過ごし方や遊んではいけない場所などの確認を行っている。</p> <p>また、月1回の集会では、各委員会からISSへの取組発表や「ISSクイズ」を行い、児童自らが主体的に安全を呼びかけている。</p>				
実施者	児童、教職員	主な対象者	児童	環境	全て


2 自転車事故の防止

11	継 続	《取組の成果は、指標7ー対策5 (P61)に記載》			
対策	自転車用ヘルメット着用運動、ヘルメット着用率グラフの掲示				
目的	自転車用ヘルメット着用率の向上				
概要	自転車用ヘルメットの着用を促すチラシの配布や、ヘルメットの常設展示、着用率の調査結果をグラフ化、ヘルメットの着用の呼びかけ等を校内に掲示するなど、児童への啓発、意識向上を推進している。				
実施者	教職員	主な対象者	児童、PTA	環境	校内・通学路・学区域






12	継 続	《取組の成果は、指標7ー対策5 （P61）に記載》			
対策	保護者への自転車用ヘルメットの購入・着用の呼びかけ				
目的	自転車用ヘルメット着用率の向上				
概要	<p>自転車用ヘルメットの着用率を向上させるためには、児童の意識向上を図るだけでなく、保護者の正しい理解と意識改革を促すことが必要なことから、PTAが先頭になって、自転車用ヘルメットの購入と着用の呼びかけを行っている。保護者集会の際には必ずヘルメットの呼びかけを行っている。</p> <p>また、PTA発行の広報誌「しみずっ子だより」では、アンケート調査やヘルメット着用の呼びかけも行った。さらに入学式では、PTA会長が祝辞のなかで、自らヘルメットを着用して、その必要性を語っている。</p>				
実施者	教職員、PTA	主な対象者	児童、PTA	環境	校内・通学路・学区域




13	継続	《取組の成果は、指標7ー対策6（P62）に記載》			
対策	自転車安全教室の実施				
目的	自転車の安全な乗り方やマナーの習得				
概要	<p>自転車の安全な乗り方やマナーなどを学ぶことを目的に、全児童を対象にPTA主催の自転車安全教室等を実施している。</p> <p>この教室で学んだ児童らが、「交通安全子ども自転車神奈川県大会」に出場し、自転車安全教室等で習得した自転車運転技術の成果を発揮している。</p>				
実施者	教職員、PTA、地域、外部講師	主な対象者	児童	環境	通学路・学区内

14	継 続	《取組の成果は、指標7ー対策6（P62）に記載》			
対策	技能走行テスト用コースの改修				
目的	自転車運転技術の向上				
概要	学校内に設けている「交通安全子ども自転車大会」の技能走行テスト用コースは自転車交通安全教室や放課後の練習する場として利用している。平成25年7月、「第44回交通安全子ども自転車神奈川県大会」において優勝した。				
実施者	教職員、厚木市	主な対象者	児童	環境	校庭



15	新 規	※(独)産業技術総合研究所と協力し、科学的な見地から取組を実施			
対策	身体サイズと自転車ブレーキの反応時間の測定				
目的	自転車事故防止				
概要	自転車に安全に乗るために、科学の目でヒヤリハットや事故分析をし、指導に生かすため、1～6年生120名の児童を対象に、身体サイズと自転車ブレーキの反応時間を測定した。その結果を基に、手のサイズに合わせたブレーキ幅の調節やヘルメットの重要性、ヒヤリハットの事例等を朝会で全児童に報告した。				
実施者	(独)産業技術総合研究所	主な対象者	児童、教職員	環境	通学路・学区域

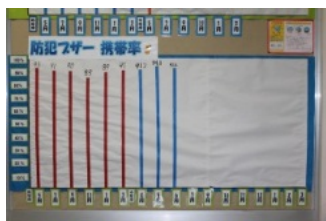
16	新 規	※(独)産業技術総合研究所と協力し、科学的な見地から取組を実施			
対策	科学の目で危険から子どもを守るための学習会				
目的	事故未然防止				
概要	<p>児童の事故予防と事故が起こったときの対策について様々な事例をもとに学んだ。事故のデータを集めて分析することで、対策を立てることができるため、本校でもけがのデータを分析し、減少への対策を立てた。</p> <p>また、自転車ヘルメットの着用の効果について学び、その後の指導に生かすことができた。</p>				
実施者	(独)産業技術総合研究所	主な対象者	児童、教職員	環境	全て


3 通学路の安全確保


17	継 続	《取組の成果は、指標7ー対策7 (P62)に記載》			
対策	かけこみポイントの充実				
目的	児童の安全確保、犯罪等の抑止(未然防止)				
概要	<p>清水小学校では、児童を不審者等から守るため、住宅や商店を緊急避難場所として指定し、通学路等の安全確保を図る「かけこみポイント」の指定数の一層の拡大のため、各家庭や商店への協力を呼びかけ、現在 950 箇所余りが登録されている。</p> <p>かけこみポイントの充実は、防犯意識のバロメーターであり、かけこみポイントの看板の掲示は、犯罪発生の抑止力にもつながっている。</p>				
実施者	教職員、PTA、地域	主な対象者	児童	環境	通学路・学区域

18	継 続				
対策	地域安全マップの作成				
目的	危険箇所等の情報共有、地域への愛着心の醸成				
概要	<p>子ども達自身の眼で地域の危険箇所や不安箇所を確認し、マップにまとめている。子どもの危険予知能力や危険回避能力、防犯意識の向上を図るとともに、地域への愛着心を育む。</p>				
実施者	PTA、外部講師	主な対象者	児童、教職員、PTA、地域	環境	全て

19	継 続				
対策	防犯ブザーの配布と点検				
目的	不審者対策、防犯意識の向上				
概要	<p>厚木市では、小学校入学の全児童に対し、防犯ブザーを配布し、登下校はもとより外出時にも携帯するように指導しているが、本校では、毎日の朝の会で所持と故障の有無について点検し、必要な場合には即時補充や交換をするなどして、所持の徹底を図っている。</p> <p>また、毎月5日の所持率をグラフに表し、廊下に掲示することで啓発を図っている。所持率は、全校で85%である。</p>				
実施者	教職員、厚木市	主な対象者	児童	環境	通学路・学区域



20	継 続				
対策	防犯教室の実施				
目的	危険回避能力の向上				
概要	児童を対象に、地域において不審者に遭遇してしまった場合にも、危険を遠ざけ安全を確保するための行動がとれる力を育むことを目的に、警備会社の方々を講師に招いての防犯教室や不審者侵入を想定した訓練を毎年実施している。				
実施者	教職員、外部講師	主な対象者	児童、教職員	環境	全て

21	継 続				
対策	愛の目運動				
目的	登下校時の児童の安全確保				
概要	自治会・老人会や交通安全指導員、交通安全母の会、PTAなどの各種団体が、登下校時の子どもの安全を守るため、見守り運動を実施している。(協力者:195名)				
実施者	PTA、地域	主な対象者	児童	環境	

22	継 続	
対策	セーフティーベスト着用運動	
目的	犯罪等の抑止(未然防止)	
概要	<p>愛の目運動を始めとした各種活動や行事開催の際に、従事者がセーフティーベストを着用したり、PTAでは自転車用防犯プレートの配付をし、自転車の前カゴに付けてもらったりして市民が一丸となって安全に対する取組を行っていることを不審者等に見せることにより、犯罪等の未然防止を図っている。</p>	
実施者	教職員、PTA、地域	主な対象者 児童
環境	通学路・学区区域	




23	新 規	※歩道のない危険個所に対し、市に要望し対応した。
対策	グリーンベルトの増設	
目的	通学路の安全確保	
概要	<p>正門、薬師門前の通学路が狭く、その道路を車が通ることから、安全性を高めるため、道路の電信柱を撤去し、グリーンベルトとして、子どもが安全に通れる道路を確保する改修工事を行った。</p>	
実施者	厚木市	主な対象者 児童
環境	通学路・学区区域	



24	継 続	
対策	情報共有ネットワーク	
目的	迅速な情報共有	
概要	<p>しみずっ子すこやかネットワーク会議では、不審者の発生や下校時間の変更などの情報を、従来の電話による連絡網に代わり、携帯電話やEメール、FAXを利用して発信している。これにより、迅速な情報提供、対応が可能となっている。</p>	
実施者	教職員、PTA、地域	主な対象者 教職員、PTA、地域
環境	通学路・学区区域	





25	継 続				
対策	危険個所の情報提供				
目的	危険環境の改善				
概要	<p>しみずっ子すこやかネットワーク会議のメンバーである自治会長らが、日常の活動の中で気付いた、樹木による死角や暗がり、危険な河川、交差点などの危険箇所情報を学校等に提供している。さらに保護者(PTA)、学校からの情報を基に、安全環境の整備、改善策を講じている。</p>				
実施者	地域	主な対象者	教職員、PTA、地域	環境	通学路・学区域





4 友達とのトラブルを防止

26	新 規				
対策	「いこいの池」ビオトープ作りと緑化事業				
目的	身近な自然にはたらきかけ、命を大切にすることができる児童の育成				
概要	<p>平成 23 年度、6 年生の手により、従来あった「いこいの池」をビオトープとして再生する活動に取り組んだ。児童の活動と各関係機関の協力により、池としての機能を復活させるとともに希少生物の保護地としての役割を担うことになった。</p> <p>平成 24 年度は、池を使った環境学習・理科学習での活用にも力を入れるとともに、教職員の知識向上にも努めた。</p> <p>6 年生児童が定点観察を毎日行い、ホームページで発信するとともに、低学年にも「ビオトープ説明会」を開き、興味・関心を持たせている。各教科の教材としての活用だけでなく、児童が心安らぐ場としての効果を持たせている。低学年では、植物や生き物を見ることを楽しみにしている児童も多い。また、高学年では、再生への責任感や希少植物への愛護がうかがわれる。また、他学年との交流や心のいこいの場としている児童も多い。</p>				
実施者	児童、教職員、専門家	主な対象者	児童	環境	校庭






27	拡 充	《取組の成果は、指標7ー対策8 （P63）に記載》				
対策	四つ葉のクローバーキャンペーン（プログラム名称を変更）					 
目的	いじめ、暴力の防止					
概要	<p>本校では、子どもにとって、学校や学級を安心して居心地の良い場所にするために、心の交流に根ざした好ましい人間関係が生まれるよう、学級活動や道徳を中心に思いやりの心の育成に取り組んできた。その成果の一端は、「学校づくり児童アンケート」の結果にも表れている。</p> <p>また、こうした積極的な取組と併せて、いじめや暴力を許さない風土の醸成を目的に、毎年10月を「四つ葉のクローバーキャンペーン月間」と定め、いじめや暴力を防止するための改善策（正しい言葉遣いやあいさつの励行など）を各クラスで話し合い、スローガンを決めて取り組んでいる。</p> <p>2012年10月には、「言ってはいけない言葉」を決め、実行した。その結果、クラス内での悪口やけんかが減少するなどの成果があがった。なお、各クラスの成果については、「児童会便り」に集約し、全校児童に向けた情報発信による啓発を行った。</p>					
実施者	児童、教職員	主な対象者	児童	環境	全て	

指標－４ ハイリスクのグループや環境を対象としたプログラム


課題解決に向けた取組のテーマである、「けがの予防」「自転車事故の防止」「通学路の安全確保」「友達とのトラブル防止」の推進に当たり、次のとおりハイリスクなグループ・環境を設定した。


低学年の児童	判断力などが、中・高学年のグループに比べ低いため
いじめ	学校は児童にとって、安心して安全に学べる環境にあることが重要であり、「いじめ」によりその環境が著しく損なわれるため
防災	地震が多いという日本特有の環境に対応するため

１ 低学年の児童


1	継 続				
対策	自転車運転技術の伝承				
目的	自転車運転技術の習得				
概要	自転車運転技術に秀でた児童(自転車大会選手ら)が、低学年児童など技術の習得が必要な児童に自転車運転技術を教える。子どもの目線に立った指導により、一層の技術向上が期待できるとともに、学年を越えた交流も生まれる。				
実施者	地域	主な対象者	児童	環境	通学路・学区域


2	拡 充	低学年児童が、段階的に集団登下校ができるようにプログラムを構成した。			
対策	集団登下校				
目的	低学年児童の登下校時の安全確保				
概要	<p>通学路の安全確保のため、高学年が低学年を引率して登下校を行う。その際、交通ルールやマナー等の指導も併せて行い、低学年の児童たちの危険回避力や危険予知力を養う。</p> <p>また、特に1年生は他学年に比べて下校時間が早いことが多いため、1年生だけで安全に下校できるように、4月当初は教職員付き添いのもとで集団下校を実施している。</p>				
実施者	教職員、PTA	主な対象者	児童	環境	通学路・学区域



3	継 続				
対策	ペア学級				
目的	低学年児童の外傷の予防				
概要	<p>入学したての1年生にとっては、学校生活の全てが新たな経験であり、活動によっては思わぬ外傷につながってしまうこともある。</p> <p>そこで、給食や清掃については4年生、またラジオ体操や縄跳びについては6年生というように、上級生がペアとなって当初から一定期間付き添う形でお手伝いをしている。</p>				
実施者	教職員	主な対象者	児童	環境	校内・校庭



2 いじめ

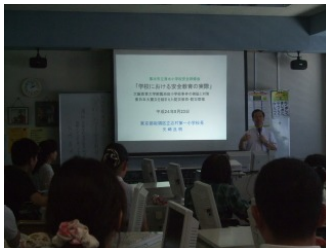
4	拡 充	再掲出 《指標3ー27 P28》			
対策	四つ葉のクローバーキャンペーン				
目的	いじめ、暴力の防止				
概要	指標-3 対策 27 参照				
実施者	児童、教職員	主な対象者	児童	環境	全て

5	継 続				
対策	いじめ防止対策の職員研修会				
目的	職員のいじめ発生時等の対応力の向上				
概要	<p>職員を対象にいじめの発生抑止や早期発見、いじめ発生後の対応策などを学ぶ研修会を実施している。</p> <p>具体的には、月1回行っている職員会議等で、学校安全事故防止会議を行い、いじめの早期発見と適切な対応について常に学習している。</p>				
実施者	教職員	主な対象者	教職員	環境	全て

3 防災

6	新 規	※地震が多い日本特有の環境を考慮し、取組を実施			
対策	防災避難訓練の実施				
目的	地震や火災発生時の安全確保				
概要	<p>年に3回防災避難訓練を実施し、2012年度からは、緊急地震速報を利用した避難訓練も併せて取り組んでいる。</p> <p>なお、年に一度、日ごろの訓練の成果を図るため、児童及び教職員へ予告なしで訓練を実施しており、いつどこで災害が起きても対応できる力を養い、自分の身は自分で守る行動を強く意識させることができた。</p> <p>2013年5月には、近隣小中学校5校との避難引き渡し訓練を実施した。地域全体で連携を取り合い、取り組めたことで防災に対する意識が更に高まった。</p>				
実施者	教職員	主な対象者	児童、PTA	環境	校内・校庭



7	新 規	※地震が多い日本特有の環境を考慮し、取組を実施			
対策	避難訓練・不審者対応・学級活動に関する教職員研修会				
目的	教職員の安全に対する知識の取得、意識の向上				
概要	地震等の自然災害からの避難、不審者対応訓練においては、警備会社や気象台等専門的な立場から学ぶことや内閣府からのDVD資料を参考に自主的に研修会を設けてきた。また校内研究では2010年度から安全教育を進めており、外部講師による研修を通し理解を深め、教職員の安全意識の向上を図っている。				
実施者	教職員、外部講師	主な対象者	教職員	環境	校内

指標－５ 入手可能な根拠に基づくプログラム

2010 年のインターナショナルセーフスクール認証時に設定した、課題及び目標を示すとともに、認証時から継続している取組、認証後に新たに始めた取組を示すものです。

１ けがの予防

（校内外傷発生データの集計から導き出した課題）

（１）認証時の課題・目標

課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・「昼休み」に「物にぶつかる」けがが多い。 ・「教室」「校庭」でけがが多い。（原因は、「物にぶつかる」「転ぶ」）
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・けがを減らす。 <p>年間けが 2008 年 5,636 件 → 2012 年 3,600 件（約 36%減） 1 日平均人数を 28 人から 18 人に減らす</p>

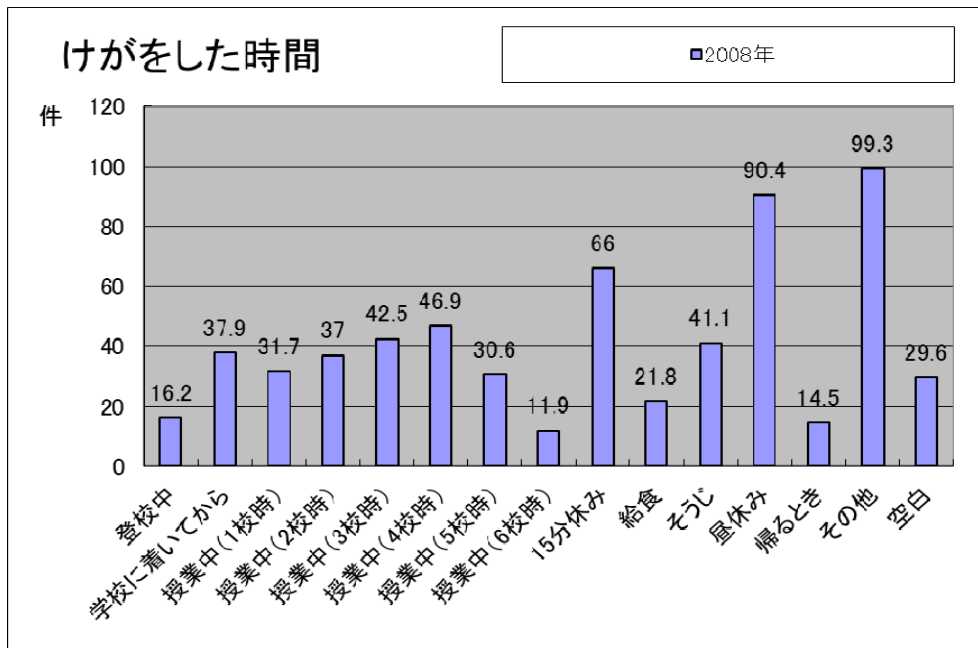
（２）課題解決に向けた取組

取 組			
取 組	指標	取 組	指標
校内外傷発生箇所図の掲示	3-1 (P17)	命についての学習 (危険回避力、危険予知力の学習)	3-5 (P19)
校内けが予防運動	3-2 (P17)	窓からの転落防止金具の設置	3-7 (P19)
校内安全点検	3-3 (P18)	学校安全計画の見直し	3-9 (P20)
校庭へのエントランススロープの 改修及び注意喚起運動	3-4 (P18)	定期的な安全指導	3-10 (P21)

図ー３ けがをした時間の児童 100 人あたりの件数

出典：2008 年 校内外傷発生データ

N：5,636 件

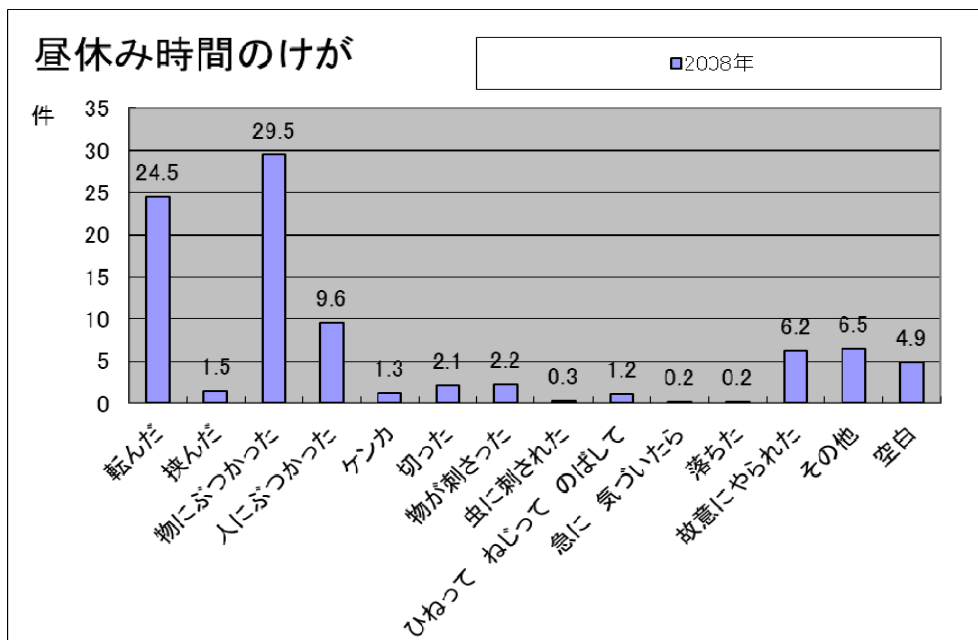


◇けがをした時間帯は、「昼休み」がトップで、次が「15 分休み」
「昼休み」のけがは、全体の約 15%だった。

図ー４ 昼休みのけがの児童 100 人あたりの件数

出典：2008 年 校内外傷発生データ

N：825 件

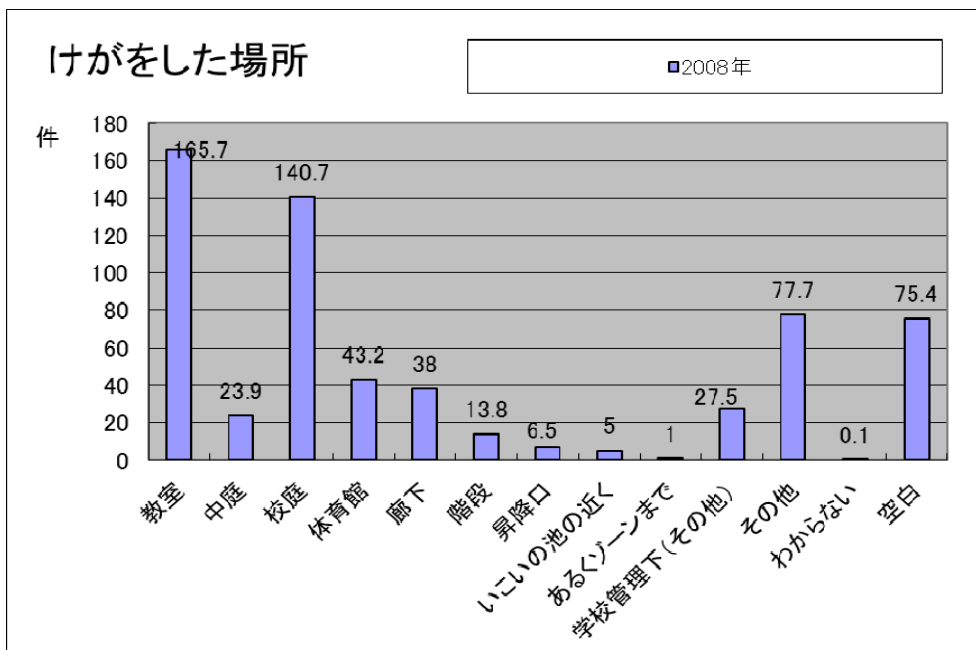


◇昼休みのけがの原因は、「物にぶつかった」がトップで、次が「転んだ」

図ー５ けがをした場所の児童 100 人あたりの件数

出典：2008 年 校内外傷発生データ

N：5,636 件



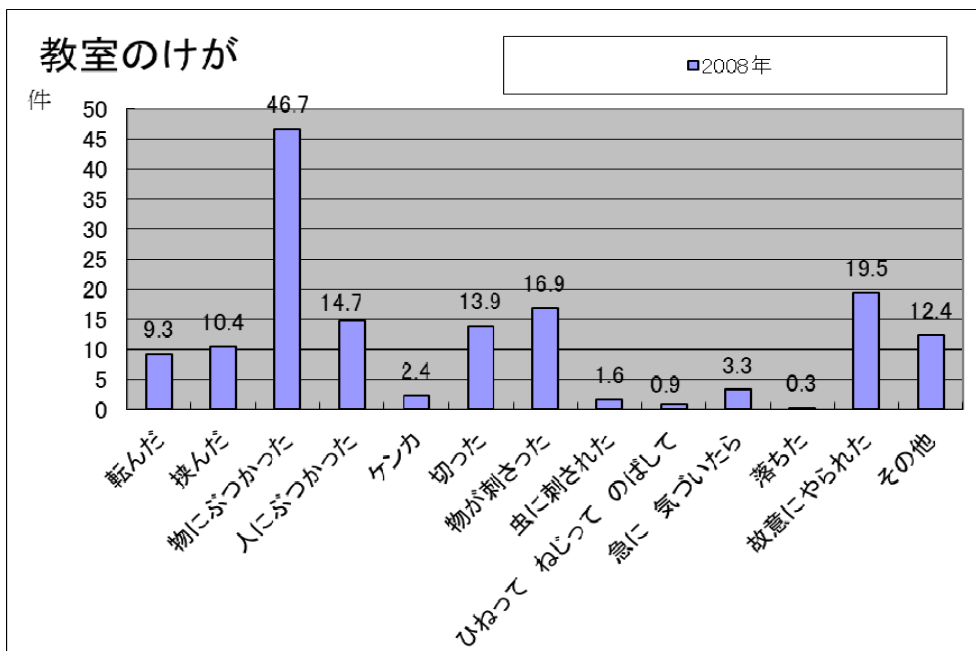
◇けがをした場所は、「教室」がトップ、次が「校庭」

「教室」と「校庭」を合わせると、全体の約 50%を占め大きな要因となっている。

図ー６ 教室のけがの児童 100 人あたりの件数

出典：2008 年 校内外傷発生データ

N：1,390 件

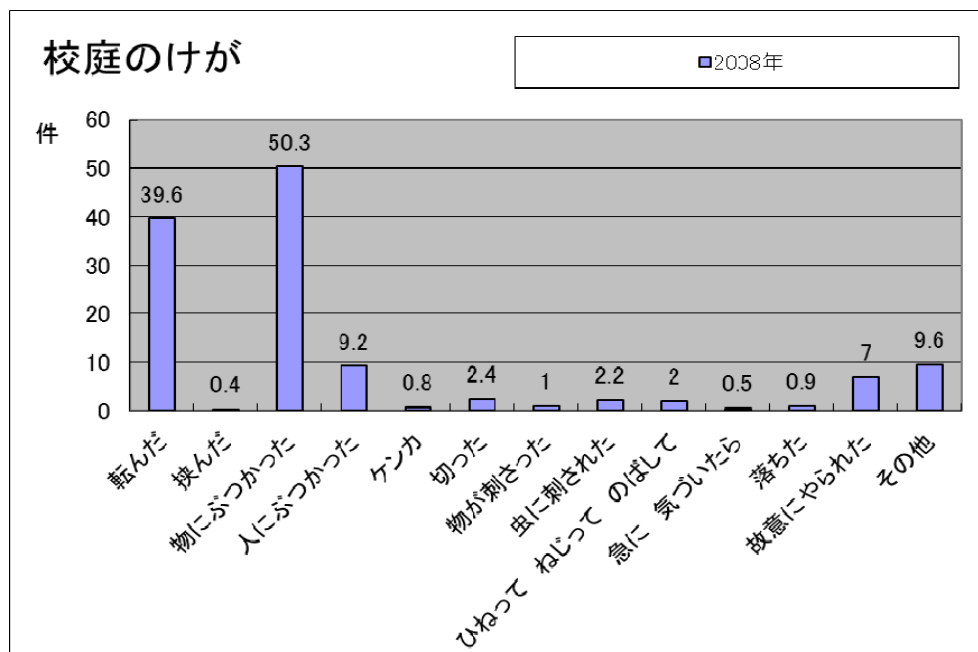


◇教室でけがをした原因、「物にぶつかった」がトップ

図－ 7 校庭のけがの児童 100 人あたりの件数

出典：2008 年 校内外傷発生データ

N：1,150 件



◇校庭でけがをした原因「物にぶつかった」がトップ、次が「転んだ」

「物にぶつかった」と「転んだ」が、全体の約 70%を占め大きな要因となっている。

2 自転車事故の防止

(自転車用ヘルメットに関するアンケート調査の実施から導き出した課題)

(1) 認証時の課題・目標

課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車事故の危険性が高い。 ・ アンケート結果より、交通安全意識の低さが見られる。 ・ 自転車の運転技術が未熟である。
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事故発生ゼロを目指す。 ・ 自転車用ヘルメットをかぶることを意識づけることから、交通安全への意識を高める。 ・ 自転車用ヘルメット着用率 2008 年 8.8%→2012 年 70%を目指す。 ・ 自転車の運転技術を向上させ、交通のマナーを身に付ける。 ・ 危険を予知し、回避できるような力を身に付けさせる。

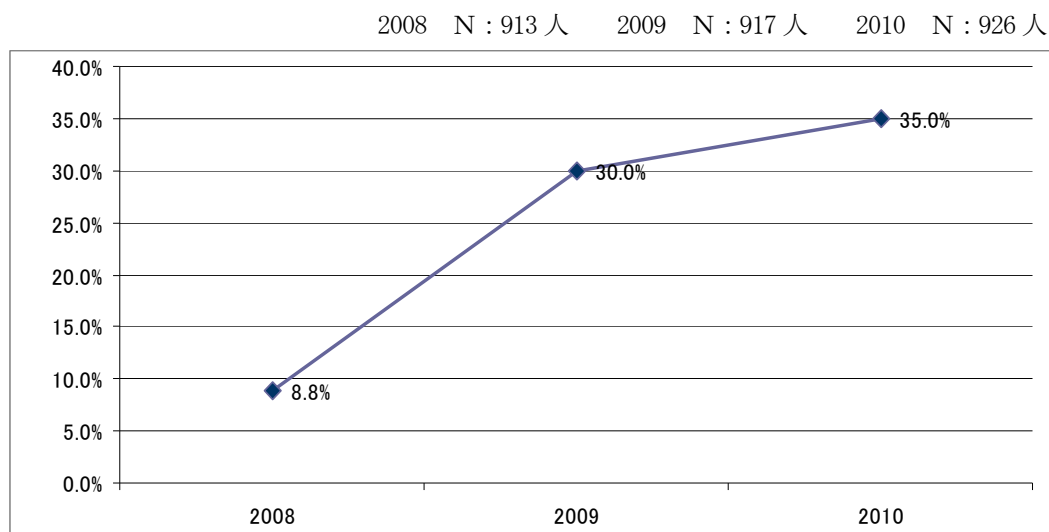
(2) 課題解決に向けた取組

取 組			
取 組	指標	取 組	指標
自転車用ヘルメット着用運動	3-11 (P21)	身体サイズと自転車ブレーキの反応時間の測定	3-15 (P23)
保護者への自転車用ヘルメットの購入・着用の呼びかけ	3-12 (P22)	科学の目で危険から子どもを守るための学習会	3-16 (P23)
自転車安全教室の実施	3-13 (P22)	自転車運転技術の伝承	4-1 (P29)
技能走行テスト用コースの改修	3-14 (P23)		

(3) 取組を設定した根拠となるデータ

図ー8 ヘルメット着用率

出典：2008年～2010年 自転車用ヘルメットに関するアンケート調査

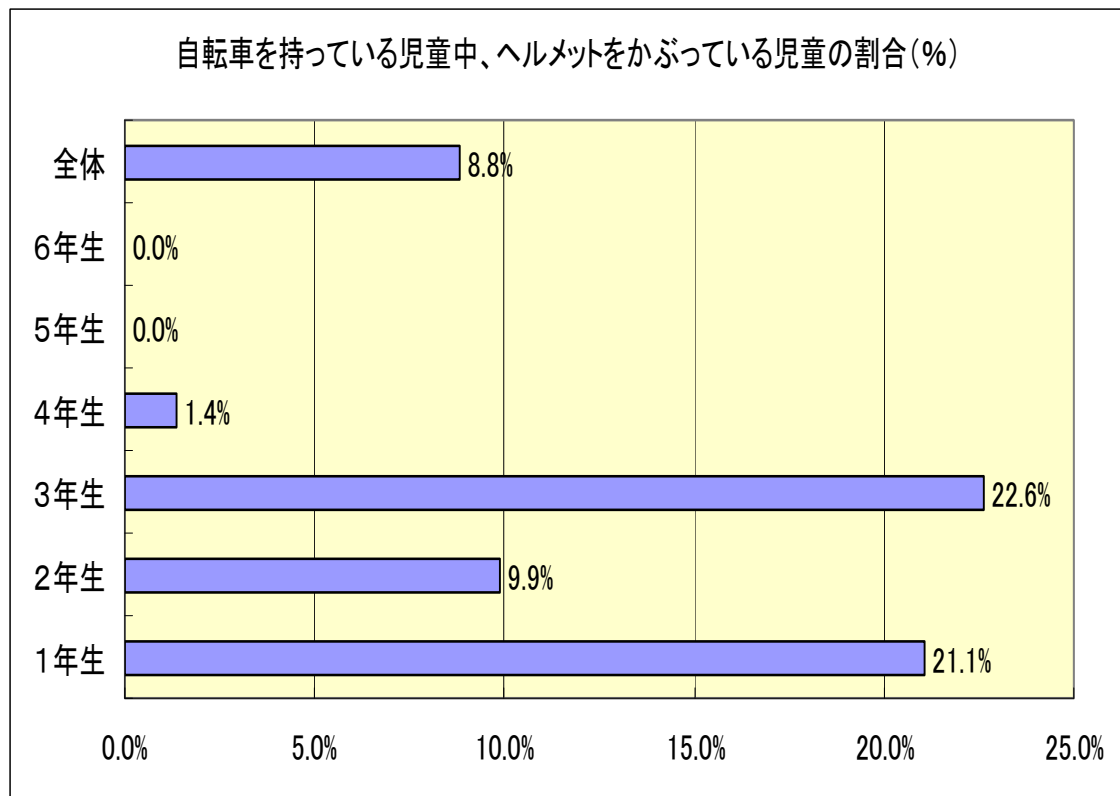


◇ 自転車を持っている児童のうち、いつもヘルメットをかぶっている児童は、全体で10%以下。

図－9 学年別ヘルメット着用率

出典：2008 年 自転車用ヘルメットに関するアンケート調査

N : 913 人



3 通学路の安全確保

(子どもの交通安全に関する行動変化のアンケートから導き出した課題)

(1) 認証時の課題・目標

課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から交通ルールが守られていない。 斜め横断が見られる。
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールを守る意思が高まるようにする。

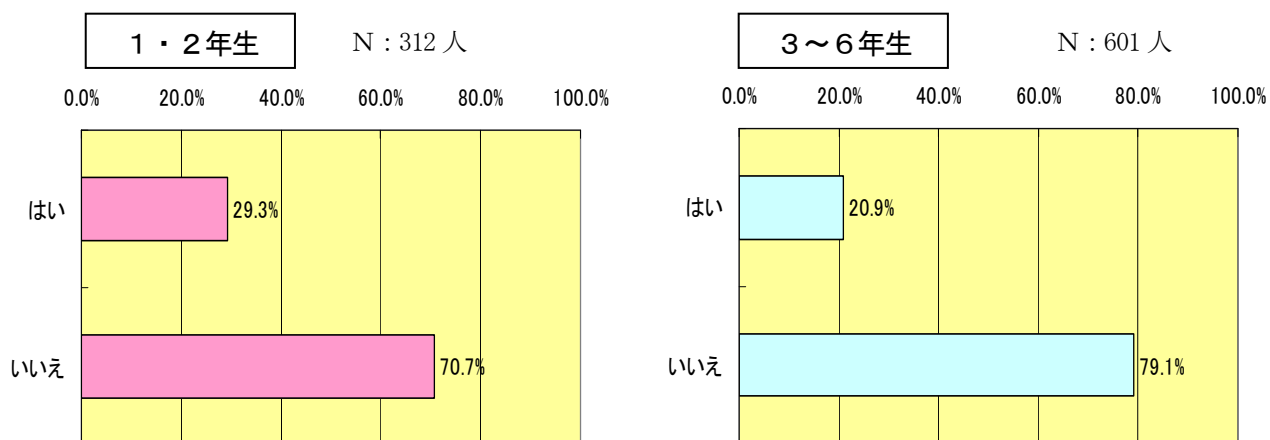
(2) 課題解決に向けた取組

取 組			
取 組	指標	取 組	指標
かけこみポイントの充実	3-17 (P24)	セーフティーベスト着用運動	3-22 (P26)
地域安全マップの作成	3-18 (P24)	グリーンベルトの増設	3-23 (P26)
防犯ブザーの配布と点検	3-19 (P25)	情報共有ネットワーク	3-24 (P26)
防犯教室の実施	3-20 (P25)	危険箇所の情報提供	3-25 (P27)
愛の目運動	3-21 (P25)	集団下校	4-2 (P29)

(3) 取組を設定した根拠となるデータ

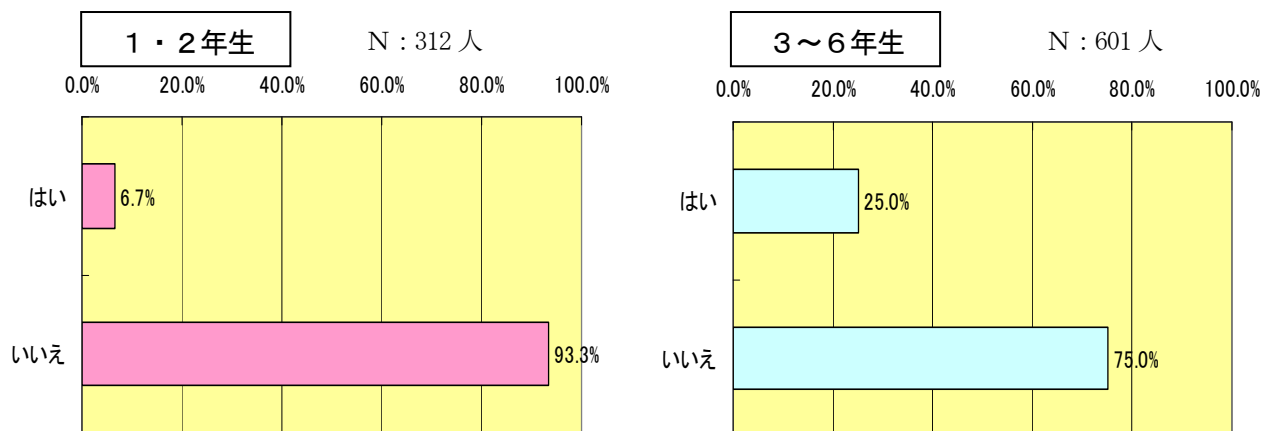
図-10 信号を無視して渡ってしまうことがある割合

出典：2008年 学校づくり児童アンケート



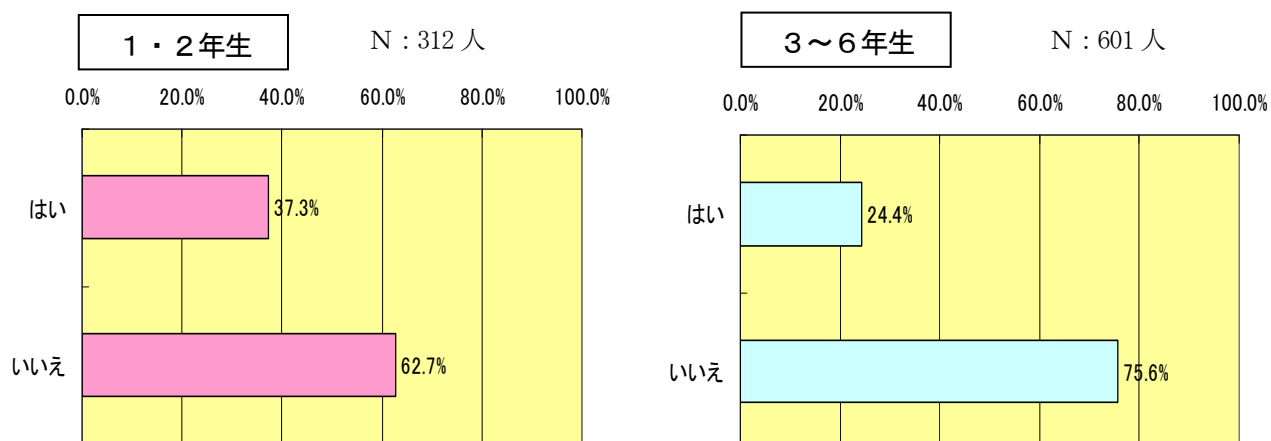
図－11 歩道橋が近くにあるが、それを使わないで道路を渡ってしまう割合

出典：2008 年 学校づくり児童アンケート



図－12 放課後や休日に友だちと遊びに行くときは、防犯ブザーを持っていく割合

出典：2008 年 学校づくり児童アンケート



4 友達とのトラブルを防止

(いじめにつながる児童の人間関係に関するアンケートから導き出した課題)

(1) 認証時の課題・目標

課 題	・友だちとのけんか等のトラブルによるけがが多い。
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとのトラブルを減らす。 ・友だちとのトラブルによるけがを減らす。

(2) 課題解決に向けた取組

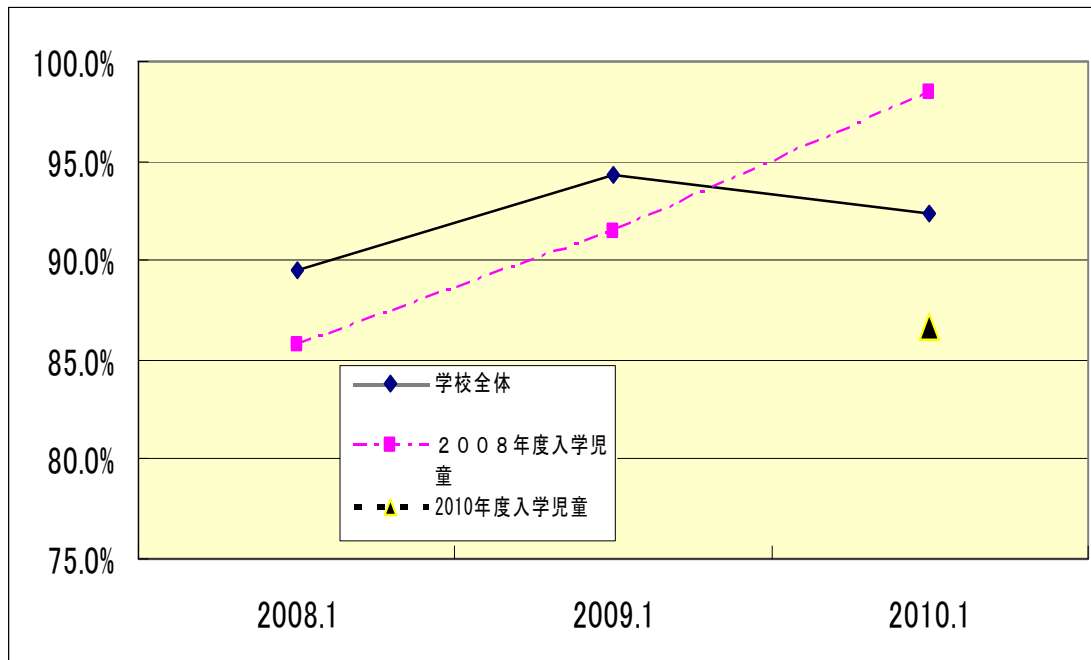
取 組			
取 組	指標	取 組	指標
「いこいの池」ビオトープ作りと緑化事業	3-26 (P27)	いじめ防止対策の職員研修会	4-5 (P30)
四つ葉のクローバーキャンペーン	3-27 (P28)		

(3) 取組を設定した根拠となるデータ

図-13 友だちと仲良く過ごすことができていると答えた児童の推移

出典：2008年～2010年 児童意識調査

2008 N：913人 2009 N：917人 2010 N：926人



全体的な傾向としては、学校生活の中で、児童がお互いに好ましい人間関係を築いてきていることがうかがえる。

ただし、少数ながら、「友だちと仲良く過ごすことができなかった」と答えた児

童がいることは、看過できない。近年、全国的にも、学校における暴力行為やいじめの問題が発生しており、ちょっとしたトラブルや言葉遣いなどがいじめへと発展する可能性を秘めている。心の交流による良好な人間関係の構築と、いじめや暴力を許さない風土づくりが重要である。

指標－6 外傷の発生頻度や原因などを記録するプログラム

外傷等の発生頻度や原因などは学校が収集し、学校及びしみずっ子すこやかネットワーク会議が、厚木市外傷サーベイランス委員会と連携を図りながら分析する。

(1) 校内外傷発生データ収集：毎日

校内で発生したけがのデータを保健室において収集し、けがをした「時間」、「場所」、「原因」、「種類」、「部位」などの情報を記録している。



(2) 校内外傷発生箇所データ収集：毎日

校内に学校の平面図を掲示し、児童自らがけがをした箇所にシールを貼り付けている。

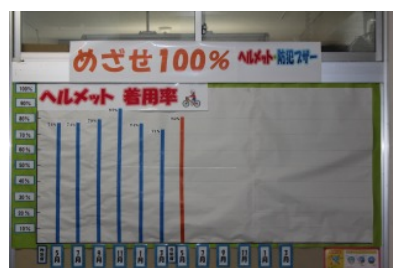
- ・実施方法：児童に直接用紙を配布回収
- ・対 象：全校児童
- ・回 収 率：回収率 100%



(3) 自転車用ヘルメットに関するアンケート調査：毎奇数月

全児童を対象に、自転車の所有の有無、自転車用ヘルメットの所持の有無及び着用の有無について、2008年11月をスタートとし、2009年5月からは奇数月に調査を実施。その数値結果推移をグラフ掲示することにより周知及び啓発を行っている。

- ・実施方法：児童に直接用紙を配布回収
- ・対 象：全校児童
- ・回 収 率：回収率 100%



(4) 児童意識調査：4 箇月毎

全児童を対象として、2010 年 6 月から 4 箇月毎に、安心・安全に対する意識調査を実施し、児童の意識や行動の変容を把握するとともに、様々な学習や指導が児童の意識向上に有効であるかについて検証を行っている。

- ・実施方法：児童に直接用紙を配布回収
- ・対 象：全校児童
- ・回 収 率：100%

(5) 学校づくり児童アンケート：毎年 7 月及び 12 月

全児童を対象に、毎年 7 月及び 12 月に、学校生活に関するアンケートを実施している。中でも「友だちと仲良く過ごすことができているか」という設問に対する回答は、子どもたちにとって、学校や学級が安心して居心地の良い場所であるかどうか、好ましい人間関係の中で生活が送れているかどうかのバロメーターとして効果をあげている。

(6) 災害共済給付データ：随時

災害共済給付とは、児童・生徒が学校の管理下で「けが」などをした際に、保護者に対して給付金を（災害共済給付）を支払う制度。

この制度を利用するには、制度で決められている金額以上の治療費を負担していることが条件としてあり、軽度のけがについては、この制度を利用できない場合もある。病院で治療が必要となる程度のけがの増減について分析をすることができる。

この制度を利用する際、市内の小中学校で「けがの状況、種類や原因」について記録しているため、随時分析することが可能となる。

(7) 厚木市救急搬送データ：年に 1 度

市内の救急搬送データを厚木市消防年報から抽出している。

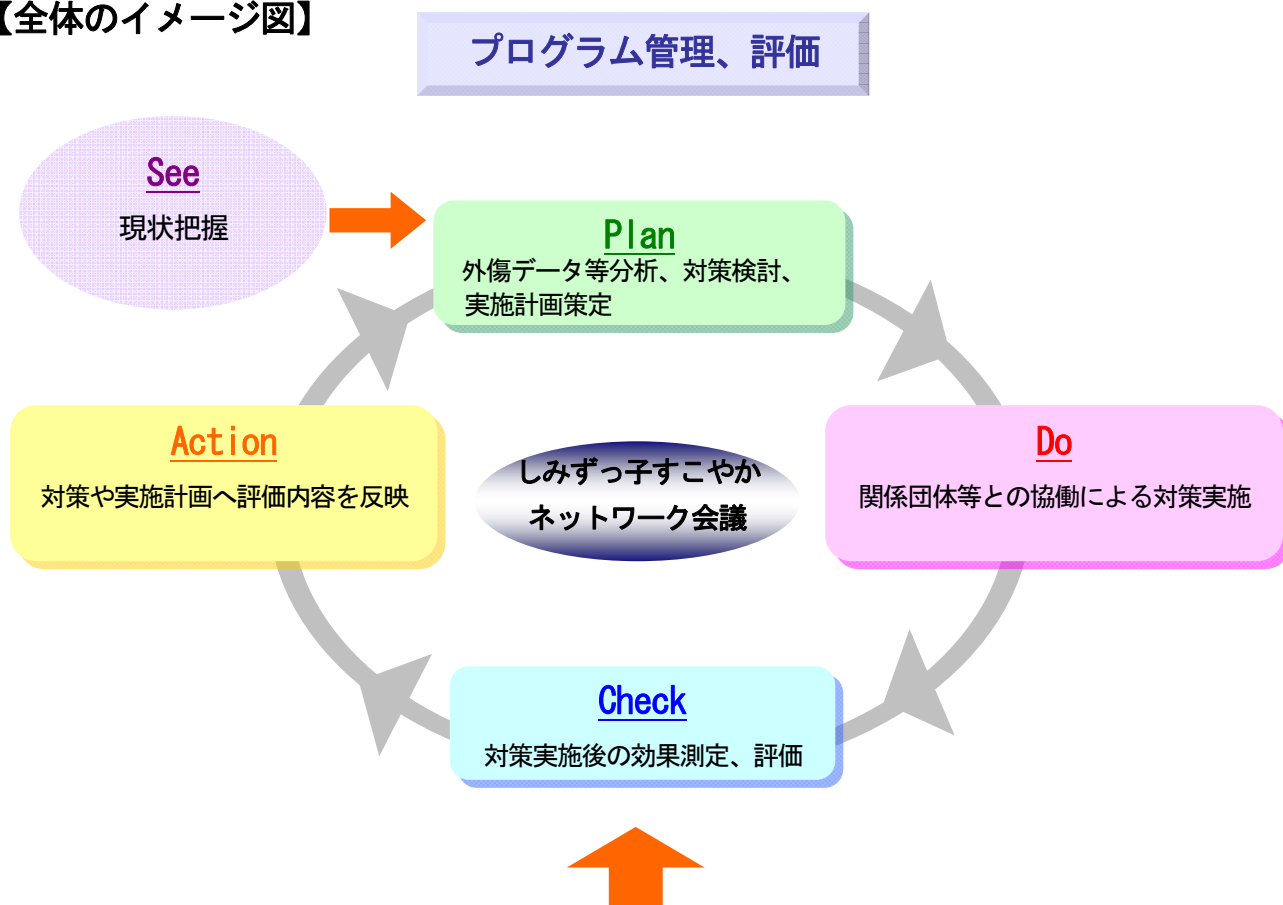
対象を小学生（7 歳以上、12 歳未満）に絞り、交通事故、一般負傷などを分析している。

指標－7 学校政策、プログラム及びそのプロセスが変化したこと による効果の評価

プログラムの進行管理は、「しみずっ子すこやかネットワーク会議」が中心となっ
て行い、評価指標に基づいて効果を確認している（全体のイメージ図のとおり）。

なお、プログラムにおける PDCA サイクルを展開していく中で、セーフスクール認証
センターの指導者に来校いただき、各取組、進行管理についてアドバイスをいただい
ている。

【全体のイメージ図】



外部評価（セーフスクール認証センター指導者による指導）

定期的に清水小学校に来校いただき、プログラムの進行状況等についてアドバイスをいただく。

【2011 年】 2 月 18 日、7 月 14 日

【2012 年】 2 月 21 日、3 月 13 日、5 月 21 日、11 月 21 日

【2013 年】 3 月 18 日、5 月 17 日

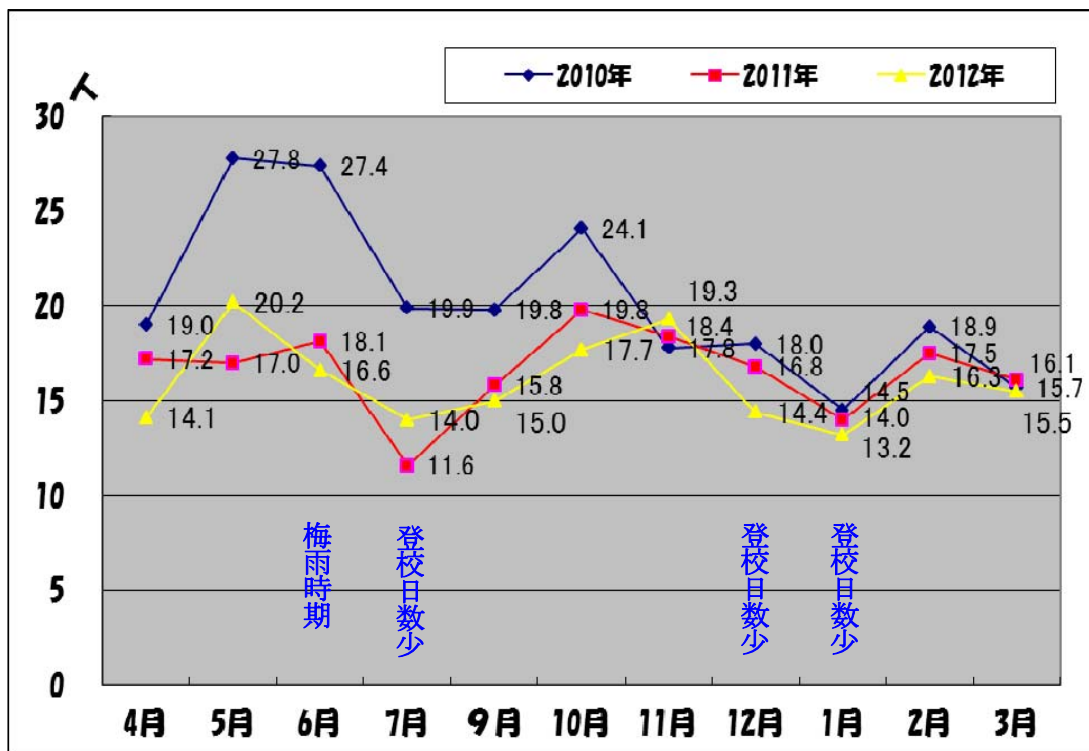
1 けがの予防

2008年4月1日から2013年3月31日までの間、学校保健室で記録した外傷データを集計した結果、校内の外傷発生件数は年々減少してきている。

目 標 (2010年に設定)	校内外傷発生件数 (保健室における校内外傷発生データ収集) 2008年度 5,636件 → 2012年度 3,600件 (約36%減)
取組の結果	2008年度 5,636件 → 2012年度 3,278件 (約42%減)

図-14 けがの来室1日平均人数の推移

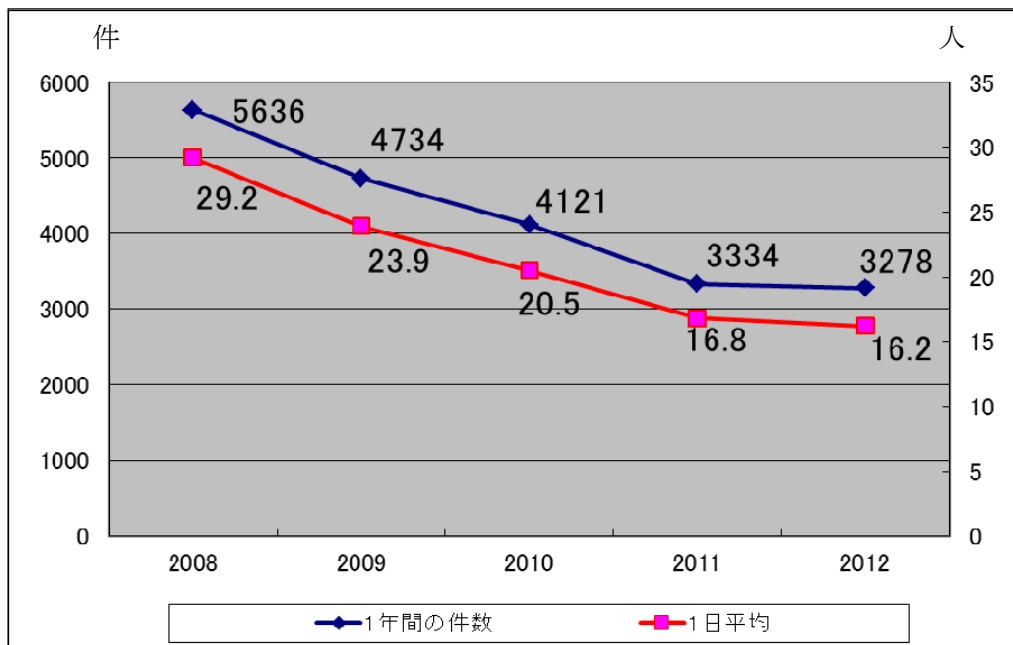
出典：2010年～2012年 校内外傷発生データ



◇児童数（図-16 参照）が増加傾向にある一方で、1年間のけがの総件数、1日平均のけがの人数ともに減少している。

図ー15 1日平均人数及び1年のけがの件数の比較

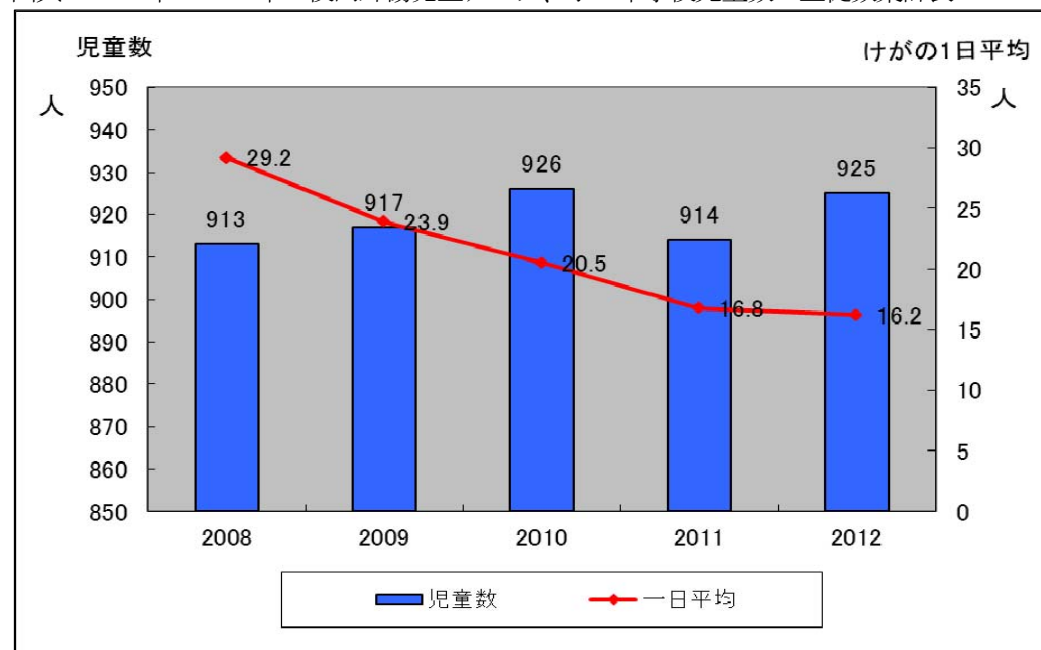
出典：2008年～2012年 校内外傷発生データ



◇けがの1年間の総数は42%、1日平均人数は44%が減少している。

図ー16 児童数及びけが1日平均人数の推移

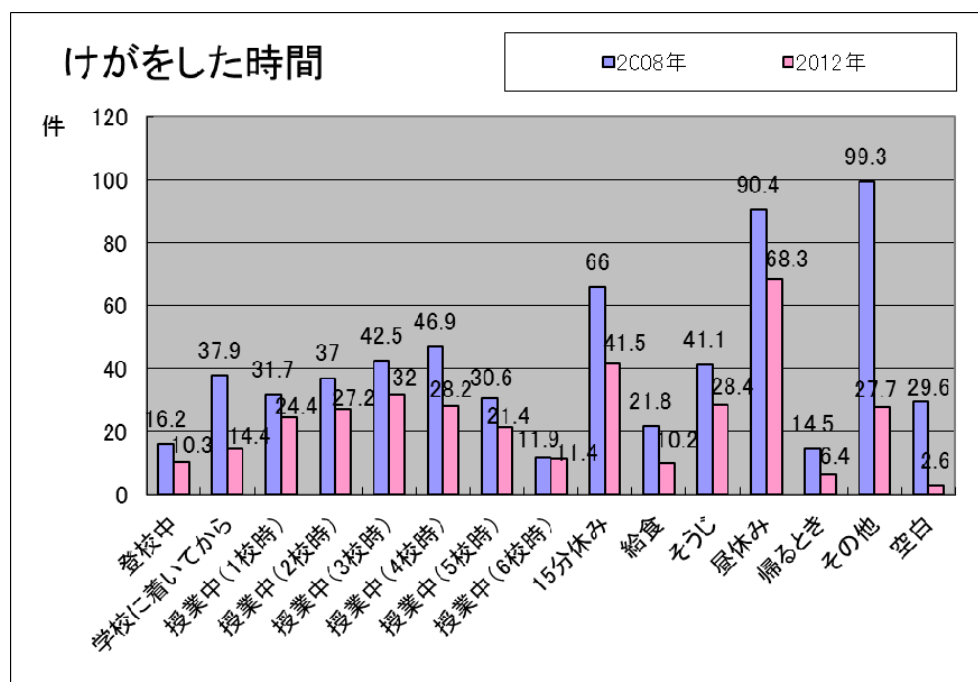
出典：2008年～2012年 校内外傷発生データ、小・中学校児童数・生徒数集計表



◇2008年から2012年にかけて、児童は増加傾向にあるが、けがの1日平均人数が13件減少している。

図ー17 けがをした時間の児童 100 人あたりの件数

出典：2008 年・2012 年 校内外傷発生データ



表ー2 けがをした時間の件数及び児童 100 人あたりの件数

出典：2008 年・2012 年 校内外傷発生データ

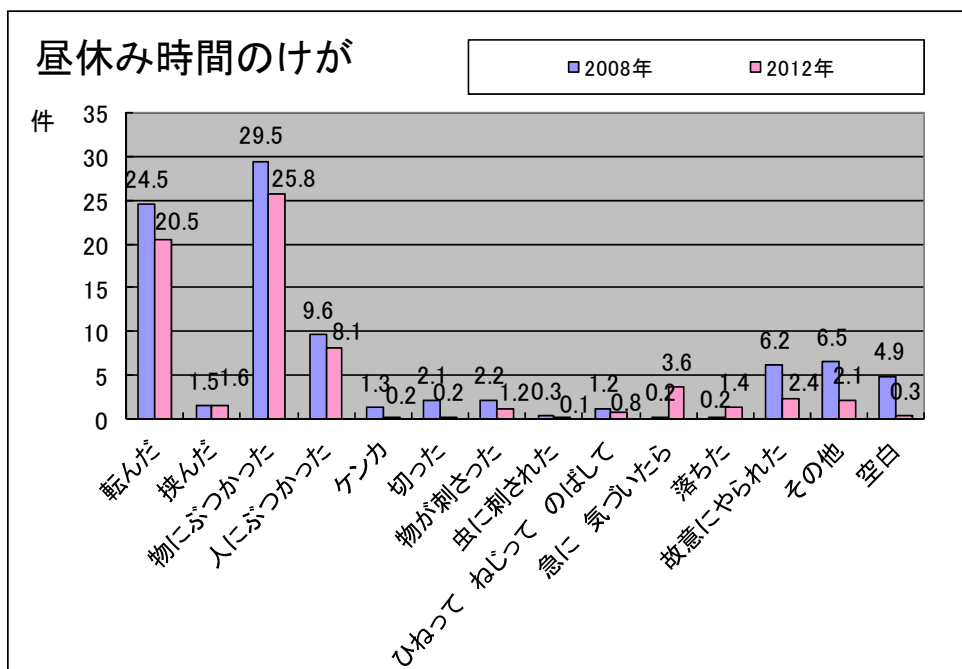
【単位：件数】

	件 数			児童100人あたり件数		
	2008年	2012年	比較	2008年	2012年	比較
登校中	148	95	-53	16.2	10.3	-5.9
学校に着いてから	346	133	-213	37.9	14.4	-23.5
授業中(1校時)	289	226	-63	31.7	24.4	-7.3
授業中(2校時)	338	252	-86	37.0	27.2	-9.8
授業中(3校時)	388	296	-92	42.5	32.0	-10.5
授業中(4校時)	428	261	-167	46.9	28.2	-18.7
授業中(5校時)	279	198	-81	30.6	21.4	-9.2
授業中(6校時)	109	105	-4	11.9	11.4	-0.5
15分休み	603	384	-219	66.0	41.5	-24.5
給食	199	94	-105	21.8	10.2	-11.6
そうじ	375	263	-112	41.1	28.4	-12.7
昼休み	825	632	-193	90.4	68.3	-22.1
帰るとき	132	59	-73	14.5	6.4	-8.1
その他	907	256	-651	99.3	27.7	-71.6
空白	270	24	-246	29.6	2.6	-27.0
合計	5,636	3,278	-2,358			

◇児童 100 人あたりの件数で比較すると、どの時間帯も大きく減少している。2008 年にトップだった「昼休み」は児童 100 人あたり約 20 件減少した。

図ー18 昼休みのけがの児童 100 人あたりの件数

出典：2008 年・2012 年 校内外傷発生データ



表ー3 昼休みけがの件数及び児童 100 人あたりの件数

出典：2008 年・2012 年 校内外傷発生データ

【単位：件数】

	件 数			児童100人あたり件数		
	2008年	2012年	比較	2008年	2012年	比較
転んだ	224	190	-34	24.5	20.5	-4.0
挟んだ	14	15	1	1.5	1.6	0.1
物にぶつかった	269	239	-30	29.5	25.8	-3.7
人にぶつかった	88	75	-13	9.6	8.1	-1.5
ケンカ	12	2	-10	1.3	0.2	-1.1
切った	19	2	-17	2.1	0.2	-1.9
物が刺さった	20	11	-9	2.2	1.2	-1.0
虫に刺された	3	1	-2	0.3	0.1	-0.2
ひねって ねじって のばして	11	7	-4	1.2	0.8	-0.4
急に 気づいたら	2	33	31	0.2	3.6	3.4
落ちた	2	13	11	0.2	1.4	1.2
故意にやられた	57	22	-35	6.2	2.4	-3.8
その他	59	19	-40	6.5	2.1	-4.4
空白	45	3	-42	4.9	0.3	-4.6
合計	825	632	-193			

◇「昼休み」のけがは、児童 100 人あたりの件数では、概ね減少している。しかし、「急に気づいたら」が増加している。

図-19 けがをした場所の児童 100 人あたりの件数

出典：2008 年・2012 年 校内外傷発生データ

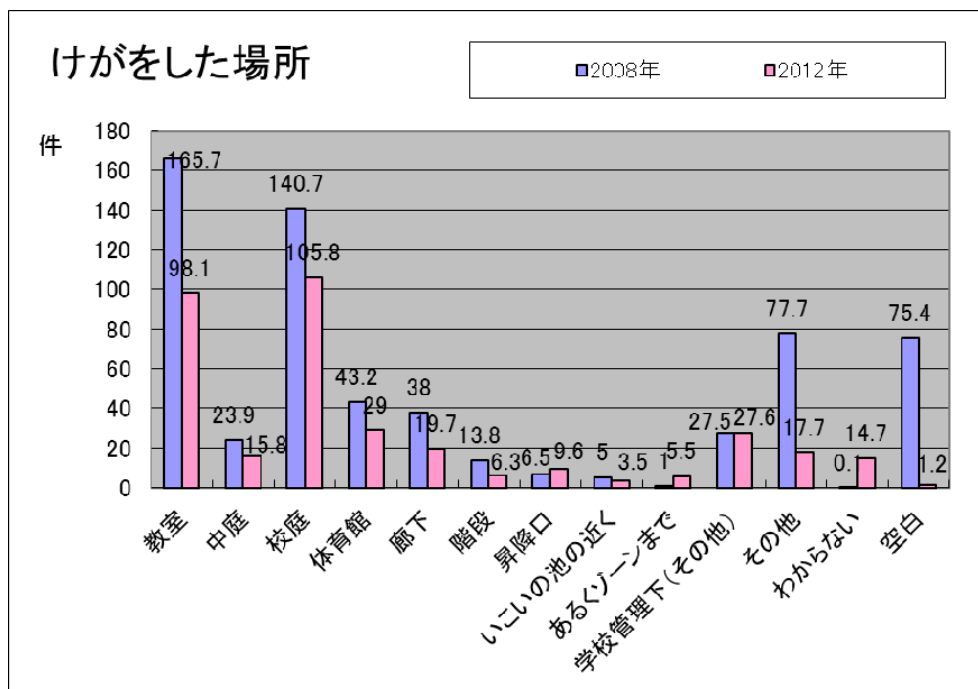


表-4 けがをした場所の件数及び児童 100 人あたりの件数

出典：2008 年・2012 年 校内外傷発生データ

【単位：件数】

	件 数			児童100人あたり件数		
	2008年	2012年	比較	2008年	2012年	比較
教室	1,513	907	-606	165.7	98.1	-67.6
中庭	218	146	-72	23.9	15.8	-8.1
校庭	1,285	979	-306	140.7	105.8	-34.9
体育館	394	268	-126	43.2	29.0	-14.2
廊下	347	182	-165	38.0	19.7	-18.3
階段	126	58	-68	13.8	6.3	-7.5
昇降口	59	89	30	6.5	9.6	3.1
いこいの池の近く	46	32	-14	5.0	3.5	-1.5
あるくゾーンまで	0	51	51	0.0	5.5	5.5
学校管理下(その他)	251	255	4	27.5	27.6	0.1
その他	709	164	-545	77.7	17.7	-60.0
わからない	0	136	136	0.0	14.7	14.7
空白	688	11	-677	75.4	1.2	-74.2
合計	5,636	3,278	-2,358			

※2008 年については、あるくゾーンの名称がなかったため、空白又は学校管理下に含まれている。

◇けがをした場所では、どの場所においても件数が減少している。2008 年にトップだった「教室」のけがは、児童 100 人あたり約 67 件減少している。

図-20 教室のけがの児童 100 人あたりの件数

出典：2008 年・2012 年 校内外傷発生データ

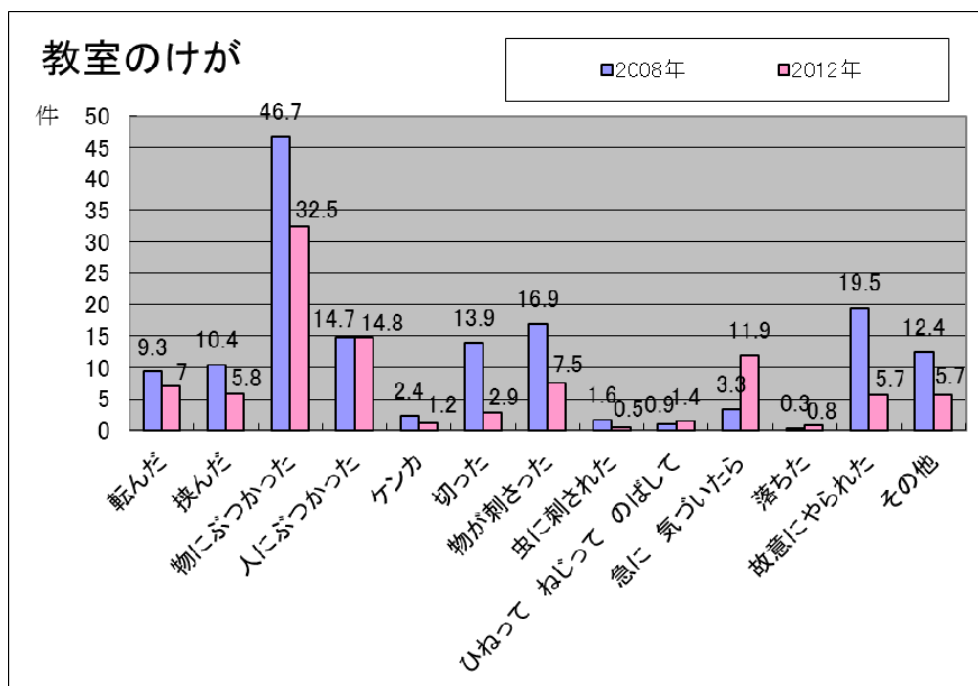


表-5 教室のけがの件数及び児童 100 人あたりの件数

出典：2008 年・2012 年 校内外傷発生データ

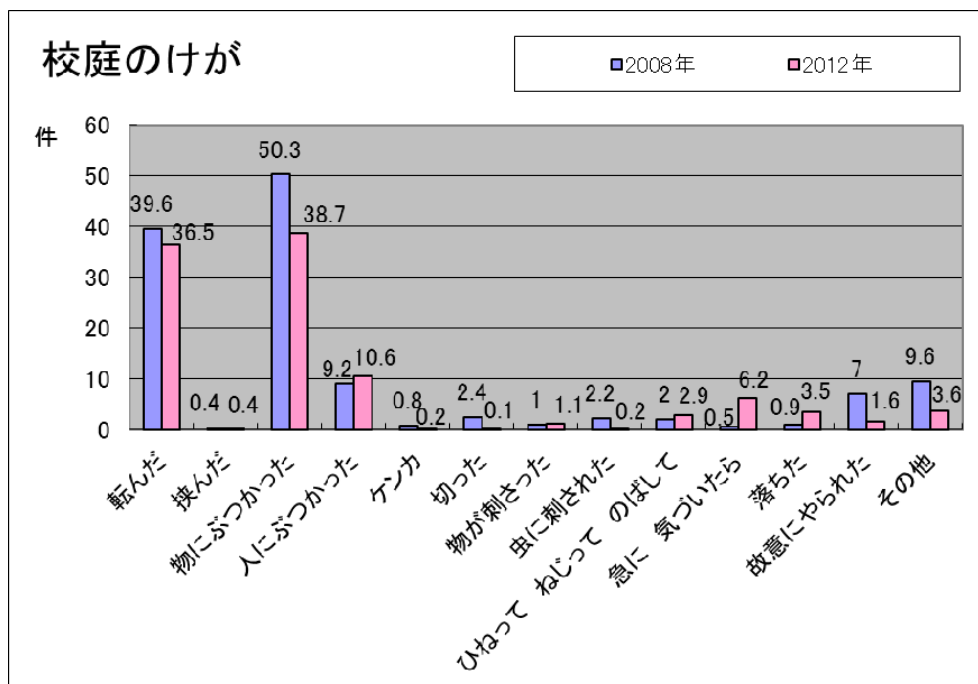
【単位：件数】

	件 数			児童100人あたり件数		
	2008年	2012年	比較	2008年	2012年	比較
転んだ	85	65	-20	9.3	7.0	-2.3
挟んだ	95	54	-41	10.4	5.8	-4.6
物にぶつかった	426	301	-125	46.7	32.5	-14.2
人にぶつかった	134	137	3	14.7	14.8	0.1
ケンカ	22	11	-11	2.4	1.2	-1.2
切った	127	27	-100	13.9	2.9	-11.0
物が刺さった	154	69	-85	16.9	7.5	-9.4
虫に刺された	15	5	-10	1.6	0.5	-1.1
ひねって ねじって のばして	8	13	5	0.9	1.4	0.5
急に 気づいたら	30	110	80	3.3	11.9	8.6
落ちた	3	7	4	0.3	0.8	0.5
故意にやられた	178	53	-125	19.5	5.7	-13.8
その他	113	53	-60	12.4	5.7	-6.7
合計	1,390	905	-485			

◇「教室」のけがは、児童 100 人あたりの件数で概ね減少している。しかし、「急に気づいたら」が増加している。

図ー21 校庭のけがの児童 100 人あたりの件数

出典：2008 年・2012 年 校内外傷発生データ



表ー6 校庭のけがの件数及び児童 100 人あたりの件数

出典：2008 年・2012 年 校内外傷発生データ

【単位：件数】

	件 数			児童100人あたり件数		
	2008年	2012年	比較	2008年	2012年	比較
転んだ	362	338	-24	39.6	36.5	-3.1
挟んだ	4	4	0	0.4	0.4	0.0
物にぶつかった	459	358	-101	50.3	38.7	-11.6
人にぶつかった	84	98	14	9.2	10.6	1.4
ケンカ	7	2	-5	0.8	0.2	-0.6
切った	22	1	-21	2.4	0.1	-2.3
物が刺さった	9	10	1	1.0	1.1	0.1
虫に刺された	20	2	-18	2.2	0.2	-2.0
ひねって ねじって のばして	18	27	9	2.0	2.9	0.9
急に 気づいたら	5	57	52	0.5	6.2	5.7
落ちた	8	32	24	0.9	3.5	2.6
故意にやられた	64	15	-49	7.0	1.6	-5.4
その他	88	33	-55	9.6	3.6	-6.0
合計	1,150	977	-173			

◇「校庭」のけがは、児童 100 人あたりの件数で概ね減少している。しかし、「教室」でのけが同様に「急に気づいたら」が増加している。

2 自転車事故の防止

定期的な安全指導等の継続的な取組に加え、科学的な見地からの取組により、ヘルメット着用率は飛躍的に向上し、それに伴って子どもたちの交通安全への意識も高まり、自転車交通事故減少へとつながっている。

<p>目 標 (2010 年に設定)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故発生ゼロを目指す。 ・自転車用ヘルメットをかぶることを意識づけることから、交通安全への意識を高める。 ・自転車用ヘルメット着用率 2008 年 8.8%→2012 年 70%を目指す。 ・自転車の運転技術を向上させ、交通のマナーを身に付ける。 ・危険を予知し、回避できるような力を身に付けさせる。
<p>取組の結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車用ヘルメット着用率 2008 年 11 月 8.8% → 2012 年 11 月 74% ・厚木市内交通事故状況から清水小学校の児童の自転車事故が減った。

図ー22 ヘルメット着用率

出典：2008 年～2012 年 自転車用ヘルメットに関するアンケート調査

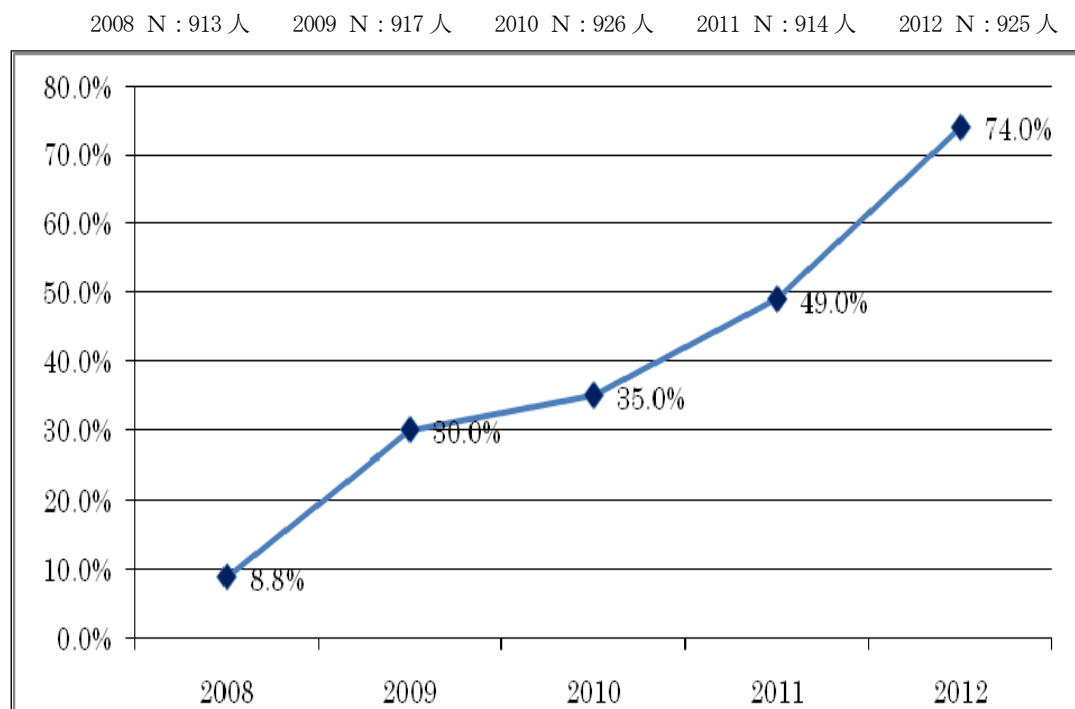


図-23 学年別ヘルメット着用率

出典：2008年・2012年 自転車用ヘルメットに関するアンケート調査

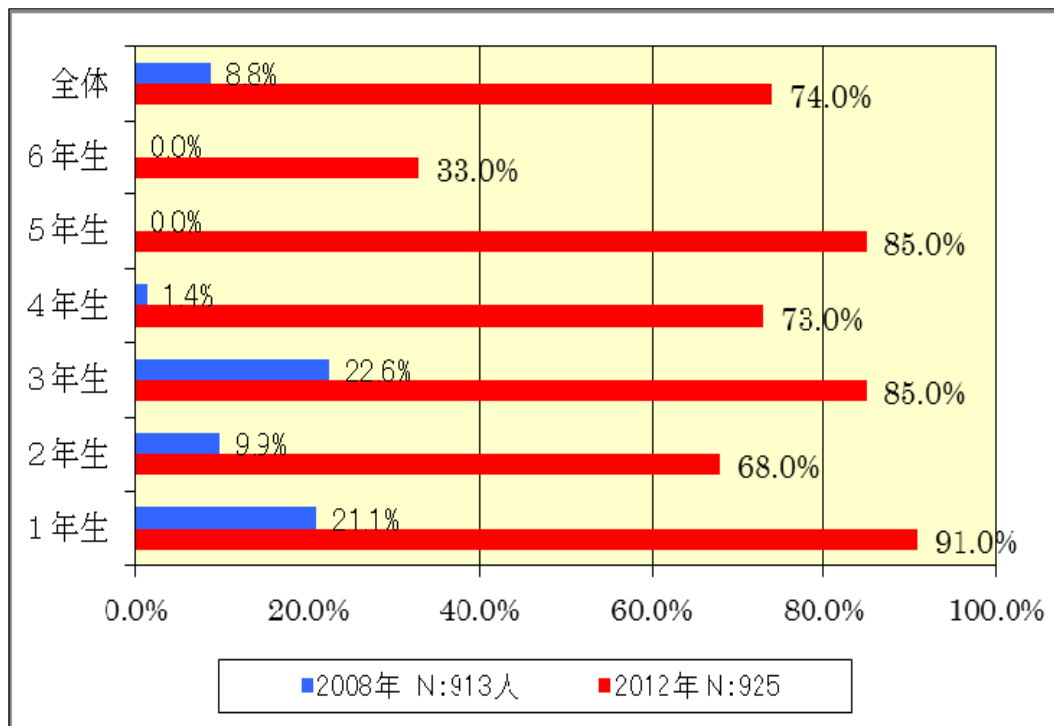
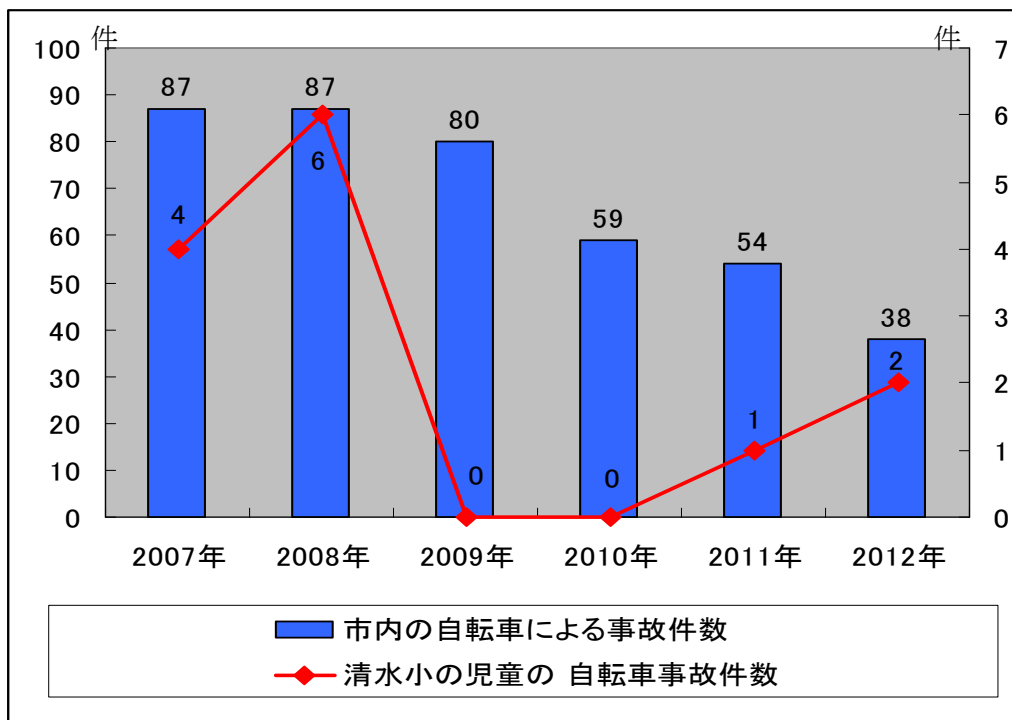


図-24 市内と清水小学校児童の自転車事故件数の比較

出典：2007年～2012年 厚木市交通事故概要・発生状況



表ー 7 市内と清水小学校児童の事故件数

出典：2007 年～2012 年 消防年報

年度	交通事故件数	子どもの 事故件数	自転車による 事故件数	清水小の児童の 自転車事故件数
2007 年	1, 8 9 9	1 4 5	8 7	4
2008 年	1, 7 5 1	1 4 9	8 7	6
2009 年	1, 6 6 3	1 4 9	8 0	0
2010 年	1, 4 9 9	1 0 9	5 9	0
2011 年	1, 3 9 3	1 1 4	5 4	1
2012 年	1, 3 3 0	9 8	3 8	2

◇認証当時、清水小学区の交通量の多さから、児童の自転車事故の危険性を危ぶむ保護者や地域の声から、頭部を守るヘルメットの着用を推進するようになった。

◇2011 年の 1 件は………自転車を降りてヘルメット着用したまま遊んでいた際にバイクと接触、けがなし。

2012 年の 2 件は………狭い道でヘルメットを着用し、自転車を押して通行している時にトラックにぶつけられた等、2 件ともけがなし。

3 通学路の安全確保

継続的な取組等の結果、児童の安全に対する意識が高まり、交通ルールへの遵守につながっている。また、児童一人一人の危機回避能力の向上が見られている。

目 標 (2010 年に設定)	子どもの安全に関する行動変化 (児童意識調査から集計) 交通ルールを守る意思が高まるようにする。
取組の結果	2008 年と 2012 年のアンケート調査のデータを比較し、信号を無視してわたる児童が減った。 また、休日などに防犯ブザーを持つ児童が増えた。

図-25 信号を無視して渡ってしまうことがある割合

出典：2008年・2012年 学校づくり児童アンケート

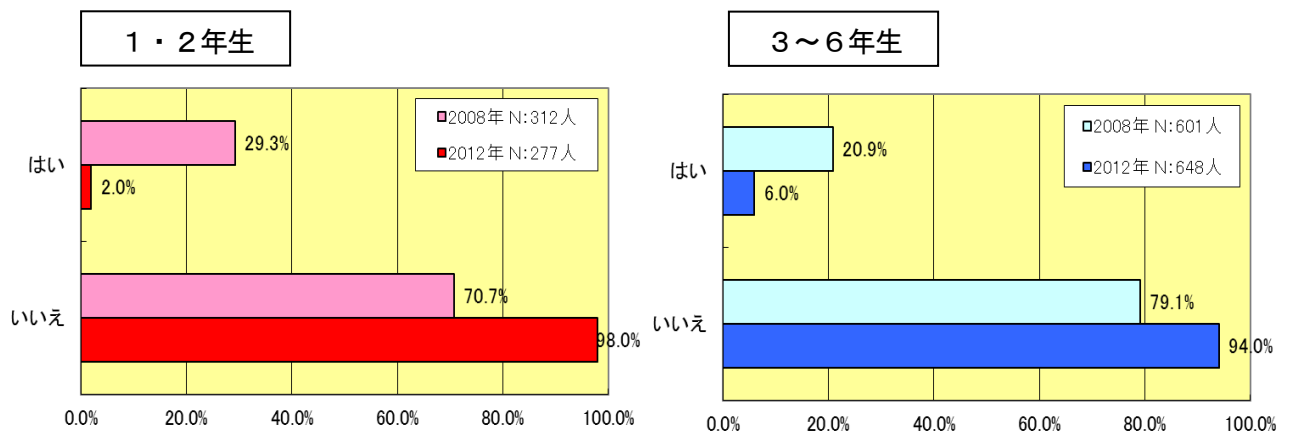


図-26 歩道橋が近くにあるが、それを使わないで道路を渡ってしまう割合

出典：2008年・2012年 学校づくり児童アンケート

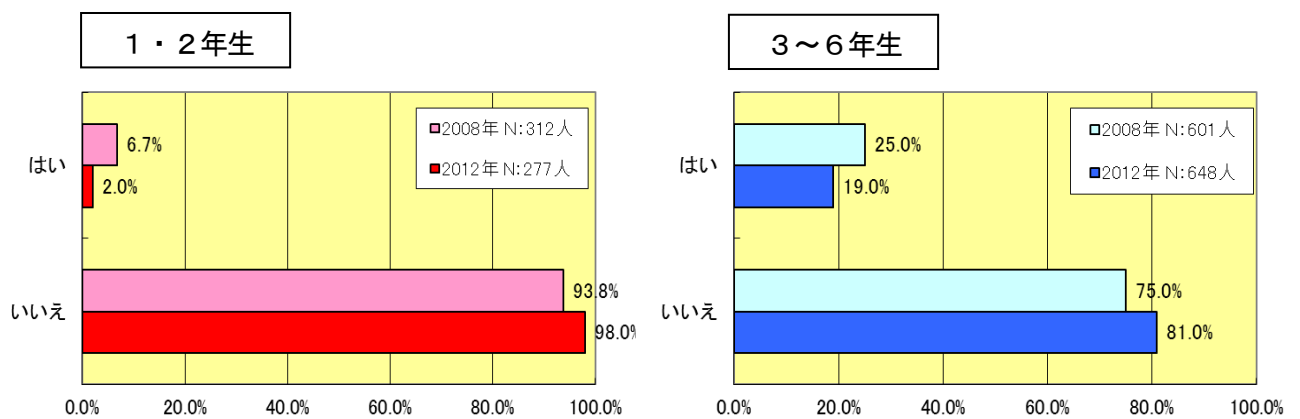
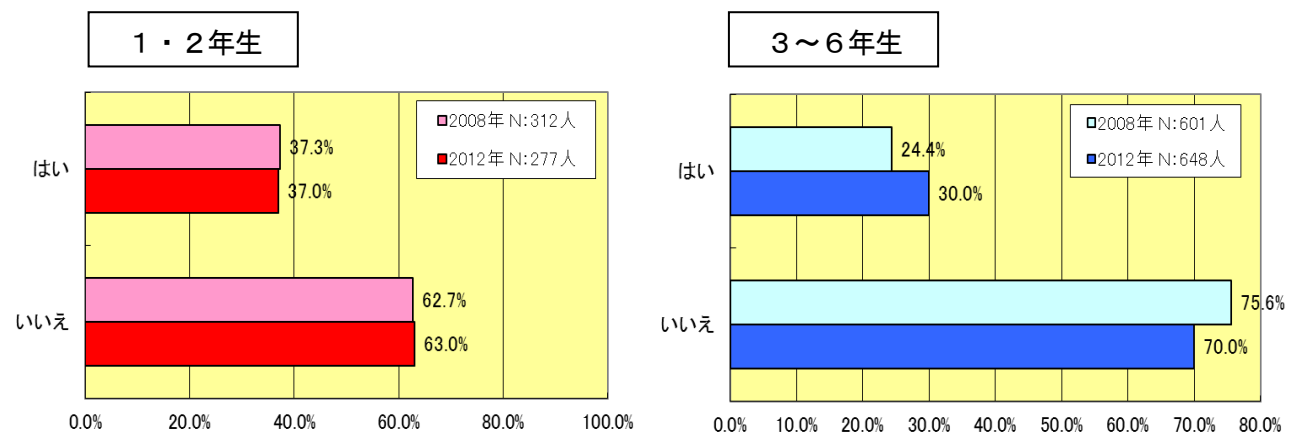


図-27 放課後や休日に友だちと遊びに行くときは、防犯ブザーを持っていく割合

出典：2008年・2012年 学校づくり児童アンケート



4 友達とのトラブルを防止

四つ葉のクローバーキャンペーンを中心とした児童の人間関係づくりの取組の結果、「いじめ・不登校の児童」が減少している。

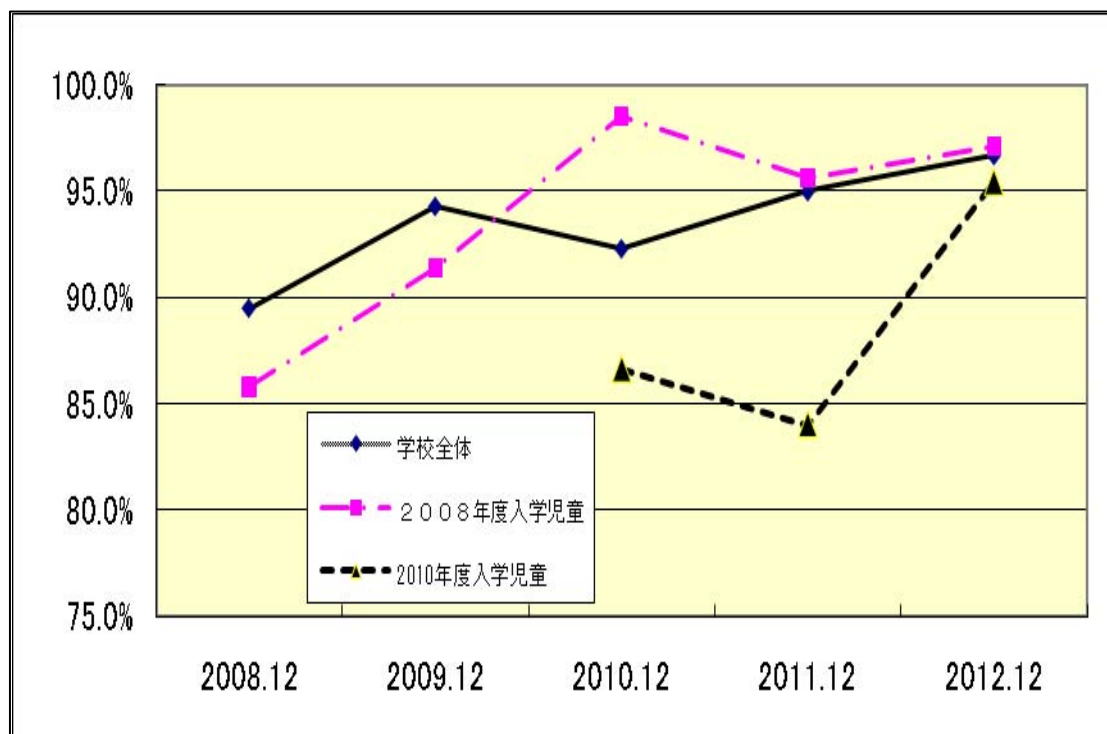
目 標 (2010 年に設定)	いじめにつながる児童の人間関係の形成 (学校づくり児童アンケートから集計) ・友だちとのトラブルを減らす。 ・友だちとのトラブルによるけがを減らす。
取組の結果	2008 年と 2012 年のアンケート調査のデータ比較から、児童の友だちと仲良く過ごすことのできる児童の割合が増えた。 現在、把握している「いじめ・不登校の児童」が減っている。

図ー28 友だちと仲良く過ごすことができていると答えた児童の推移

出典：2008 年～2012 年 児童意識調査

◇友だちと仲良く過ごすことができているか

2008 N : 913 人 2009 N : 917 人 2010 N : 926 人 2011 N : 914 人 2012 N : 925 人



表－８ 清水小学校いじめ・不登校の件数の推移

単位：件

年 度	いじめ	不登校
2007 年度	—	4
2008 年度	—	4
2009 年度	—	3
2010 年度	2	2
2011 年度	2	5
2012 年度	1	5
2013 年度（現在）	0	1

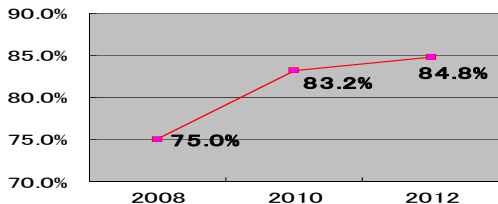
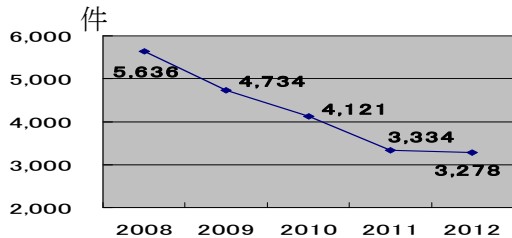
参 考

文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（2008 年度）」

- 小学校総数：22,476 校
- いじめ認知学校数：7,437 校
- いじめ認知件数：40,807 件
- 暴力発生学校数（校内）：1,564 校
- 暴力発生件数（校内）：5,996 件

近年、母子分離ができない、生活環境の乱れなどの理由で不登校児童が増加する傾向にあるが、四つ葉のクローバーキャンペーン、教職員のいじめ防止研修会、不登校児童支援のケース会、横浜プログラム等の取組、ビオトープ・緑化運動により、短時間でも学校に来られるようになったり、学校に来ることに対しての抵抗感が低くなることで少しずつ登校できるようになっている傾向が見られる。

◇ 具体的な取組の変化 ◇

1																					
対策	校内外傷発生箇所図の掲示																				
短・中期成果		長期目標																			
目標	けがの予防に対する意識の向上	校内外傷発生件数の減少																			
指標と実績	時間を守るや廊下を走らない等の学校生活におけるルールを守って生活していると答えた児童の割合	校内外傷データ発生件数																			
	 <table border="1"><thead><tr><th>年</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>2008</td><td>75.0%</td></tr><tr><td>2010</td><td>83.2%</td></tr><tr><td>2012</td><td>84.8%</td></tr></tbody></table>	年	割合	2008	75.0%	2010	83.2%	2012	84.8%	 <table border="1"><thead><tr><th>年</th><th>発生件数</th></tr></thead><tbody><tr><td>2008</td><td>5,636</td></tr><tr><td>2009</td><td>4,734</td></tr><tr><td>2010</td><td>4,121</td></tr><tr><td>2011</td><td>3,334</td></tr><tr><td>2012</td><td>3,278</td></tr></tbody></table>	年	発生件数	2008	5,636	2009	4,734	2010	4,121	2011	3,334	2012
年	割合																				
2008	75.0%																				
2010	83.2%																				
2012	84.8%																				
年	発生件数																				
2008	5,636																				
2009	4,734																				
2010	4,121																				
2011	3,334																				
2012	3,278																				
確認手段	保健室における校内外傷発生件数集計データ 児童意識調査 学校づくり児童アンケート	保健室における校内外傷発生件数集計データ																			

2		
対策	校内けが予防運動	
	短・中期成果	長期目標
目標	<p>(校内のけがの原因トップ:物にぶつかる) 物にぶつかることによるけがの件数の減少 物にぶつかることによるけが予防の意識向上 (けがした時間帯トップ:休み時間) 休み時間におけるけがの件数の減少 休み時間におけるけが予防の意識向上</p>	校内外傷発生件数の減少

指標と実績	<p>物にぶつかったことによるけがの件数と、予防運動により、けがに気をつけようと思った児童の割合</p> <p>人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Number of children injured</th> <th>Percentage of children becoming cautious</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2008</td> <td>1,464</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2010</td> <td>1,073</td> <td>80.0%</td> </tr> <tr> <td>2012</td> <td>979</td> <td>85.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>休み時間にけがをする件数と、予防運動により、けがに気をつけようと思った児童の割合</p> <p>人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Number of children injured during break</th> <th>Percentage of children becoming cautious</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2008</td> <td>1,428</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2010</td> <td>1,301</td> <td>80.0%</td> </tr> <tr> <td>2012</td> <td>1,016</td> <td>85.0%</td> </tr> </tbody> </table>	Year	Number of children injured	Percentage of children becoming cautious	2008	1,464	-	2010	1,073	80.0%	2012	979	85.0%	Year	Number of children injured during break	Percentage of children becoming cautious	2008	1,428	-	2010	1,301	80.0%	2012	1,016	85.0%	<p>校内外傷データ発生件数</p> <p>件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Number of incidents</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2008</td> <td>5,636</td> </tr> <tr> <td>2009</td> <td>4,734</td> </tr> <tr> <td>2010</td> <td>4,121</td> </tr> <tr> <td>2011</td> <td>3,334</td> </tr> <tr> <td>2012</td> <td>3,278</td> </tr> </tbody> </table>	Year	Number of incidents	2008	5,636	2009	4,734	2010	4,121	2011	3,334	2012	3,278
	Year	Number of children injured	Percentage of children becoming cautious																																			
2008	1,464	-																																				
2010	1,073	80.0%																																				
2012	979	85.0%																																				
Year	Number of children injured during break	Percentage of children becoming cautious																																				
2008	1,428	-																																				
2010	1,301	80.0%																																				
2012	1,016	85.0%																																				
Year	Number of incidents																																					
2008	5,636																																					
2009	4,734																																					
2010	4,121																																					
2011	3,334																																					
2012	3,278																																					
確認手段	<p>保健室における校内外傷発生件数集計データ 児童意識調査 学校づくり児童アンケート</p>	<p>保健室における校内外傷発生件数集計データ</p>																																				

3																					
対策	校内安全点検																				
<div>短・中期成果</div> <div>長期目標</div>																					
目標	<p>児童意識調査 学校づくり児童アンケート結果 危険環境等改善件数</p> <p>校内外傷発生件数の減少</p>																				
指標と実績	<p>校内安全点検に関する児童の意識変化</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Awareness percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2008</td> <td>88.3%</td> </tr> <tr> <td>2010</td> <td>91.9%</td> </tr> <tr> <td>2012</td> <td>92.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>校内外傷発生件数</p> <p>件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Number of incidents</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2008</td> <td>5,636</td> </tr> <tr> <td>2009</td> <td>4,734</td> </tr> <tr> <td>2010</td> <td>4,121</td> </tr> <tr> <td>2011</td> <td>3,334</td> </tr> <tr> <td>2012</td> <td>3,278</td> </tr> </tbody> </table>	Year	Awareness percentage	2008	88.3%	2010	91.9%	2012	92.6%	Year	Number of incidents	2008	5,636	2009	4,734	2010	4,121	2011	3,334	2012	3,278
Year	Awareness percentage																				
2008	88.3%																				
2010	91.9%																				
2012	92.6%																				
Year	Number of incidents																				
2008	5,636																				
2009	4,734																				
2010	4,121																				
2011	3,334																				
2012	3,278																				
確認手段	<p>児童意識調査 学校づくり児童アンケート</p> <p>保健室における校内外傷発生件数集計データ</p>																				

4													
対策	校庭へのエントランススロープの改修及び注意喚起運動												
短・中期成果													
目標	スロープでのけがの件数の減少 スロープを通るときにけが予防の意識の向上												
指標と実績	スロープによるけがの件数と、通るときに気を付けようと思う児童の割合												
	<table><thead><tr><th>年</th><th>スロープでのけがの件数</th><th>スロープを通るときにけが予防の意識の向上</th></tr></thead><tbody><tr><td>2008</td><td>42</td><td>80.0%</td></tr><tr><td>2012</td><td>25</td><td>83.0%</td></tr></tbody></table>	年	スロープでのけがの件数	スロープを通るときにけが予防の意識の向上	2008	42	80.0%	2012	25	83.0%			
年	スロープでのけがの件数	スロープを通るときにけが予防の意識の向上											
2008	42	80.0%											
2012	25	83.0%											
確認手段	保健室における校内外傷発生件数集計データ 現場聞き取り調査 児童意識調査 学校づくり児童アンケート												
長期目標													
	校内外傷発生件数の減少												
	<table><thead><tr><th>年</th><th>校内外傷発生件数</th></tr></thead><tbody><tr><td>2008</td><td>5,636</td></tr><tr><td>2009</td><td>4,734</td></tr><tr><td>2010</td><td>4,121</td></tr><tr><td>2011</td><td>3,334</td></tr><tr><td>2012</td><td>3,278</td></tr></tbody></table>	年	校内外傷発生件数	2008	5,636	2009	4,734	2010	4,121	2011	3,334	2012	3,278
年	校内外傷発生件数												
2008	5,636												
2009	4,734												
2010	4,121												
2011	3,334												
2012	3,278												

5																					
対策	自転車用ヘルメット着用運動、ヘルメット着用率グラフの掲示 保護者への自転車用ヘルメットの購入・着用の呼びかけ																				
短・中期成果																					
目標	長期目標																				
自転車用ヘルメット着用率の向上	自転車事故時の頭部損傷件数の減少 自転車交通事故件数の減少																				
指標と実績 自転車用ヘルメット着用率 <table border="1"> <caption>自転車用ヘルメット着用率</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>着用率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2008</td> <td>8.8%</td> </tr> <tr> <td>2010</td> <td>35.5%</td> </tr> <tr> <td>2012</td> <td>74.0%</td> </tr> </tbody> </table>	年	着用率	2008	8.8%	2010	35.5%	2012	74.0%	自転車事故時の頭部損傷件数 2008～2012 年度 : 0件 自転車交通事故件数 <table border="1"> <caption>自転車交通事故件数</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2008</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>2009</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2010</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2011</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2012</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	年	件数	2008	6	2009	0	2010	0	2011	1	2012	2
年	着用率																				
2008	8.8%																				
2010	35.5%																				
2012	74.0%																				
年	件数																				
2008	6																				
2009	0																				
2010	0																				
2011	1																				
2012	2																				
確認手段	自転車用ヘルメットに関する調査 保護者からの報告 教職員による確認																				

対策

自転車安全教室の実施
技能走行テスト用コースの改修

短・中期成果

長期目標

目標

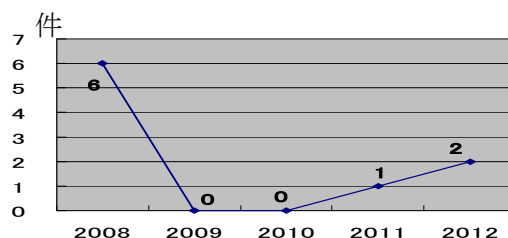
運転技術の向上
自転車事故予防に対する意識の向上

自転車交通事故件数の減少

指標と実績

交通安全子ども自転車神奈川県大会成績
2009 年:4 位
2010 年:市予選敗退
2011 年:2 位(学科満点:2 人、敢闘賞:3 人)
2012 年:2 位(学科満点:1 人、敢闘賞:3 人)
2013 年:1 位(個人優勝、個人準優勝を獲得)
交通安全子供自転車全国大会
2013 年:8 位入賞(個人準優勝を獲得)

自転車交通事故件数



確認手段

交通安全子ども自転車神奈川県大会成績
児童意識調査、学校づくり児童アンケート

保護者からの報告
教職員による確認

対策

かけこみポイントの充実

短・中期成果

長期目標

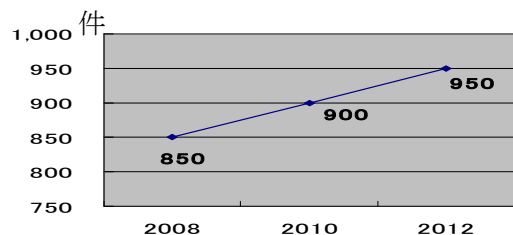
目標

かけこみポイント設置数の増加

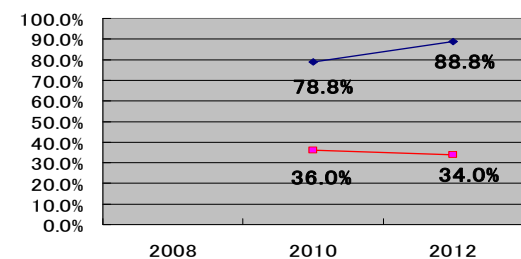
地区内声かけ事案の減少

指標と実績

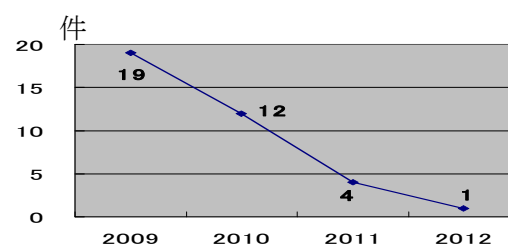
かけこみポイント設置数



防犯ブザー携帯率



地区内声かけ事案



確認手段	かけこみポイント登録件数 児童意識調査 学校づくり児童アンケート	不審者動向調査
------	--	---------

8																				
対策	四つ葉のクローバーキャンペーン																			
短・中期成果		長期目標																		
目標	命の尊さ、相手を思いやる心を育てる いじめ・不登校の減少	トラブルによるケガの減少																		
指標と実績	いじめ・不登校件数の推移 <table><thead><tr><th>年</th><th>いじめ</th><th>不登校</th></tr></thead><tbody><tr><td>2011</td><td>2</td><td>5</td></tr><tr><td>2012</td><td>1</td><td>5</td></tr><tr><td>2013</td><td>0</td><td>1</td></tr></tbody></table>	年	いじめ	不登校	2011	2	5	2012	1	5	2013	0	1	トラブル(けんか)によるけがの件数 <table><thead><tr><th>年</th><th>けがの件数</th></tr></thead><tbody><tr><td>2008</td><td>53</td></tr><tr><td>2012</td><td>12</td></tr></tbody></table>	年	けがの件数	2008	53	2012	12
	年	いじめ	不登校																	
2011	2	5																		
2012	1	5																		
2013	0	1																		
年	けがの件数																			
2008	53																			
2012	12																			
確認手段	学校づくり児童アンケート	保健室における校内外傷発生件数集計データ																		

指標－８ 国内・国際的なネットワークへの継続的な参加

2008. 11	「セーフコミュニティ推進に向けての市民総決起大会」(厚木市)にて取組を発表
2009. 2	アジア地域WHOセーフコミュニティ認証センター指導者が清水小学校を視察
2009. 3	台湾国内のインターナショナルセーフスクールを視察
2009. 4	「しみずっ子すこやかネットワーク会議」が厚木市セーフコミュニティモデル地区に指定される
2009. 9	「第13回融合フォーラム2009 in 神奈川」(厚木市)にて取組を発表
2009. 11	「セーフコミュニティ認証取得に向けての総決起大会」(厚木市)にて取組を発表
2009. 11	韓国国内のインターナショナルセーフスクールを視察
2010. 2	「第31回厚木市立小・中学校PTA活動研究大会」(厚木市)にて取組を発表
2010. 3	大阪教育大学附属池田小学校のインターナショナルセーフスクール認証式に参加
2010. 3	「アジア・太平洋学校安全推進フォーラム」(大阪府池田市)に参加
2010. 3	「第19回セーフコミュニティ国際会議」(韓国スウォン市)でポスター発表
2010. 6	アジア地域WHOセーフコミュニティ認証センター指導者が清水小学校を視察
2010. 8	インターナショナルセーフスクール認証校である大阪教育大学附属池田小学校から講師を招いて校内研究会を実施
2010. 9	日本市民安全学会「市民オープンカレッジ」(厚木市)にて取組を発表
2010. 10	「第14回融合フォーラム in 富士山のまち富士宮」(富士宮市)にて取組を発表
2010. 10	「平成22年度PTA会長と教育関係者との研究会」(厚木市)にて取組を発表
2010. 11	「市民安心・安全フェスタ2010 in あつぎ」(厚木市)にて取組を発表
2010. 11	「インターナショナルセーフスクール」の認証を取得し、認証式を開催
2011. 3	全国学校安全教育研究大会・東京都学校安全教育研究大会にて取組を発表
2011. 6	「としま安全安心フェスタ」(東京都豊島区)で取組を発表
2011. 7	埼玉県学校安全指導者研究会にて取組を発表
2011. 8	神奈川県大和市安全部研究会にて取組を発表
2011. 9	「第20回セーフコミュニティ国際会議」(スウェーデンファールン)でポスター発表
2011. 11	「第53回神奈川県PTA大会」(厚木市)で取組を発表
2011. 11	「セーフコミュニティ・インターナショナルセーフスクール認証1周年記念大会」(厚木市)で取組を発表

2011. 11	「日本セーフティプロモーション学会第5回学術大会」(大阪府池田市) 取組を発表
2011. 12	「日本セーフコミュニティ推進機構(JUSC)国際シンポジウム」(大阪府大阪市) で取組を発表
2012. 1	文部科学省中央教育審議会取組を発表
2012. 4	大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター「日本国際セーフスクール認証センター設立記念祝賀会」及び「第2回アジア・太平洋学校安全推進フォーラム」(大阪府池田市) に参加
2012. 6	「しみずっ子すこやかネットワーク会議」が平成24年度厚木市安心・安全セーフコミュニティ推進地区に指定される。
2012. 6	神奈川県教育委員に取組を発表
2012. 10	京都府議会視察団に取組を発表
2012. 10	東京都豊島区立朋友小学校の国際セーフスクール現地審査に参加
2012. 11	東北大学・山形大学の視察団に取組を発表
2012. 11	厚木市立小・中学校校長会で取組を紹介
2012. 11	東京都豊島区立朋友小学校の国際セーフスクール認証式に参加
2012. 11	第6回アジア地域セーフコミュニティ国際会議 in 豊島で取組を発表
2012. 11	日本教育新聞社に取組を発表
2012. 12	厚木市妻田保育園職員研修会で取組を発表
2012. 12	高知県の小学校視察で取組を発表
2013. 1	平成24年度かながわ学力向上シンポジウムで取組を発表
2013. 1	韓国視察団に取組を発表
2013. 2	「総合教育技術」に取組を発表
2013. 3	大阪教育大学附属池田小学校の国際セーフスクール認証式に参加
2013. 6	「しみずっ子すこやかネットワーク会議」が平成25年度厚木市安心・安全セーフコミュニティ推進地区に指定される。



豊島区立朋友小学校認証式



第6回アジア地域セーフコミュニティ国際会議

V 今後の課題及び目標

優先課題・目標

8つの指標に基づく取組を行い、成果、個々の対策の結果をまとめ、次のとおり、継続すべき課題、新たに取り組むべき課題を抽出し目標を設定した。

1 けがの予防

(校内外傷発生データ、共済給付データから導き出した課題)

課 題 (継続)	<ul style="list-style-type: none">・「昼休み」に「物にぶつかる」けがが多い。・「教室」「校庭」でけがが多い。(原因は、「物にぶつかる」「転ぶ」)
目 標	<ul style="list-style-type: none">・けがを減らす。 <p>年間けが 2012年3,278件 → 2015年3,000件 (約9%減)</p> <p>1日平均16.4人から15人に減らす。</p>

2 自転車事故の防止

(自転車用ヘルメットに関するアンケート調査から導き出した課題)

課 題 (継続)	<ul style="list-style-type: none">・自転車事故の危険性が高い。・アンケート結果より、交通安全意識の低さが見られる。・自転車の運転技術が未熟である。
目 標	<ul style="list-style-type: none">・自転車用ヘルメットをかぶることを意識づけることから、交通安全への意識を高める。・自転車用ヘルメット着用率2012年74%→2015年80%を目指す。・自転車の運転技術を向上させ、交通のマナーを身に付ける。・危険を予知し、回避できるような力を身に付けさせる。

3 通学路の安全確保

(子どもの交通安全に関する行動変化のアンケートから導き出した課題)

課 題 (継続)	<ul style="list-style-type: none">・アンケート結果から、低学年に比べ高学年の交通ルールに対する意識が低い。・防犯ブザーの携帯率が低い。
-------------	---

目 標	<ul style="list-style-type: none">・交通ルールを守る意思が高まるようにする。・防犯ブザーの携帯率を高める。
-----	---

4 友達とのトラブルを防止

(いじめにつながる児童の人間関係に関するアンケートから導き出した課題)

課 題 (継続)	<ul style="list-style-type: none">・友だちとのけんか等のトラブルによるけがが多い。
-------------	--

目 標	<ul style="list-style-type: none">・友だちとのトラブルを減らす。・友だちとのトラブルによるけがを減らす。
-----	--

5 防災対策

(地震などの災害が多い日本特有の環境から導き出した課題)

課 題 (新規)	<ul style="list-style-type: none">・深刻な自然災害の多発による防災対策の見直しが必要。
-------------	--

目 標	<ul style="list-style-type: none">・「自分の命は自分で守る」ための自助の徹底。・訓練や学習などから、定期的な安全指導を深めていく。
-----	---

VI 長期展望

1 長期目標

- (1) 校内の事故や外傷の発生件数を減らす。
- (2) 児童自らが危険を把握・予知し、回避する力「安全力」を育成する。
- (3) 児童、保護者、教員のみならず、地域との連携を強化し、地域ぐるみで安全性の向上を図る。
- (4) 命を大切にし、思いやりの心を育成する。

2 今後の展開

- (1) 協働による運営基盤の充実を図る。
- (2) 安全向上プログラムを継続的に推進する。
- (3) 学校の安全に関与する全ての教職員、保護者及び地域の方々などの安全向上プログラムを実施する。
- (4) 外傷の頻度と原因を記録するプログラムを継続的に運用する。
- (5) 安全向上プログラム、プロセスの評価及び改善を継続的に実施する。
- (6) 国内外のネットワークへの継続的に参加するとともに、インターナショナルセーフスクール認証校との交流を図る。
- (7) インターナショナルセーフスクールの制度の普及・啓発を図る。





インターナショナルセーフスクールで
しみずっ子の光り輝く安心・安全な学校を

厚木市立清水小学校

〒243-0815

神奈川県厚木市妻田西 3-18-1

tel:(046)221-4210 fax:(046)221-4539

e-mail:shimizu-es@edu.city.atsugi.kanagawa.jp

「ISS認証申請書」は、清水小学校ホームページからダウンロードできます。

清水小学校ホームページ <http://www.edu.city.atsugi.kanagawa.jp/shimizu-es/>